

# いばらき県議会だより県民アンケート調査

## 結 果 報 告 書

平成21年11月

## ごあいさつ

このたび、茨城県議会では、県政及び県議会に対する県民の皆様  
の関心や意見などを把握し、今後の県議会活動に反映するうえで  
必要な基礎資料を得ることを目的とし、いばらき県議会だよりの  
紙面を活用し本県議会として初めて「いばらき県議会だよりに  
県民アンケート調査」を実施しました。

今回の調査では、「雇用対策について」や「福祉の充実について」、  
「子育て支援について」、「安全な社会づくりについて」など県政  
の主要な具体的課題に係る設問や、「県の重点施策について」や「議  
会活動について」など今後力を入れるべき施策の方向性に係る設  
問など16項目について調査を行いました。その結果、県民の皆  
様方から4,607件もの貴重な回答を頂きました。

私たち県議会は、今後の議会活動を通じて、このアンケートに  
寄せられた県民の皆様の声に応え、県政に十分に反映させ、実り  
あるふるさとづくりの実現に全力を尽くしていきたいと考えてお  
ります。

おわりに、本アンケートの趣旨にご理解いただき、調査にご協  
力いただきました県民の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成21年11月18日

|            |      |       |
|------------|------|-------|
| 茨城県議会情報委員会 | 委員長  | 鶴岡正彦  |
|            | 副委員長 | 本澤徹   |
|            | 委員   | 鈴木せつ子 |
|            | 委員   | 田所嘉徳  |
|            | 委員   | 藤島正孝  |
|            | 委員   | 荻津和良  |
|            | 委員   | 狩野岳也  |
|            | 委員   | 佐々木忠男 |
|            | 委員   | 高崎進   |
|            | 委員   | 半村登   |

## 目次

|                  |    |
|------------------|----|
| アンケート調査の概要等      | 1  |
| 県議会だより県民アンケート体系表 | 3  |
| アンケート調査結果        |    |
| 産業大県づくりについて      | 4  |
| 茨城空港について         | 7  |
| 森林湖沼環境税について      | 10 |
| 雇用対策について         | 15 |
| 福祉の充実について        | 18 |
| 子育て支援について        | 21 |
| 農業の振興について        | 24 |
| 食の安全・安心について      | 27 |
| 景観行政について         | 30 |
| 道路行政について         | 33 |
| 教育のあり方について       | 36 |
| 安全な社会づくりについて     | 39 |
| 県の重点施策について       | 43 |
| 議会広報について         | 47 |
| 議会活動について         | 50 |
| 県政・県議会に対する提案等    | 53 |
| アンケート設問          | 54 |

～この冊子のよみかた～

- (1) 集計は、各選択肢の回答総数に対する割合を出しています。
- (2) 「その他の主な意見」及び「県政県議会に対する提案等」については、回答いただいた意見の中から、複数意見や代表的な意見・提案等を掲載しています。

## アンケート調査の概要等

## アンケート調査の概要等

### 1 アンケート調査の目的

県政及び県議会に対する県民の関心や意見などを把握し、今後の県議会活動に反映させるうえで必要な基礎的資料を得ることなどを目的に、いばらき県議会だよりの紙面を活用し県民アンケートを実施。

### 2 アンケート調査の概要

#### (1) 調査方法

- ・ いばらき県議会だより（年4回、毎定例県議会後発行。新聞折り込みにより県内全世帯配布）紙面を活用したアンケート調査  
議会だより紙面中に料金後納返信用封書を刷り込み、回答者が切り離し郵送する方式

県議会ホームページからも、インターネットを活用して同様のアンケートに回答可能とする。（<http://www.pref.ibaraki.jp/gikai/>）

#### (2) 調査時期

平成21年7月12日（議会だより第168号発行日）～平成21年8月31日

### 3 アンケート調査の項目

県政及び県議会活動全般に係る主要な課題の中から16問を設定し、県民の意向等を調査。

産業大県づくりについて  
茨城空港について  
森林湖沼環境税について  
雇用対策について  
福祉の充実について  
子育て支援について  
農業の振興について  
食の安全・安心について

景観行政について  
道路行政について  
教育のあり方について  
安全な社会づくりについて  
県の重点施策について  
議会広報について  
議会活動について  
県政・県議会に対する提案等

（参考）アンケート体系表（P3）及びアンケート調査票（P54～P62）

#### 4 アンケート調査回収結果

##### (1) 回答総数

4,607件(郵送 4,398件、インターネット 186件、持参 23件)

##### (2) 回答者の属性

ア、性別 (男) 63% : (女) 34% (無回答) 3%

イ、年齢

|          |       |
|----------|-------|
| (19歳以下)  | 0.3%  |
| (20～29歳) | 1.7%  |
| (30～39歳) | 6.6%  |
| (40～49歳) | 8.6%  |
| (50～59歳) | 16.8% |
| (60～69歳) | 35.0% |
| (70歳以上)  | 28.3% |
| (無回答)    | 2.7%  |

県議会だより県民アンケート体系表



# アンケート調査結果



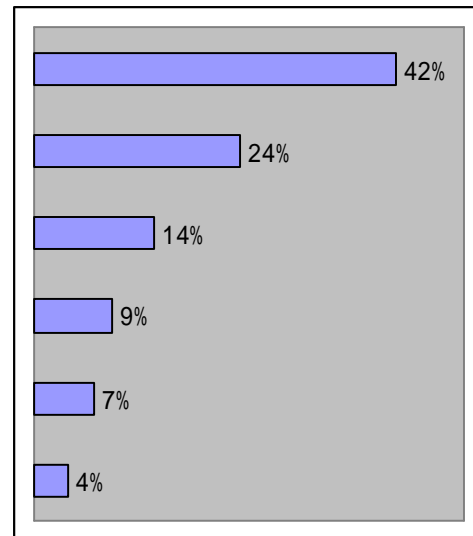
## 産業大県づくりについて

「消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立」が40%を超える

問 1 茨城県では、競争力にあふれ、これからの日本を産業面でリードするため「産業大県」づくりを推進しています。産業大県の実現のために、あなたは、次のうち特にどれに力を入れていくべきと思いますか。(2つまで をつけてください)

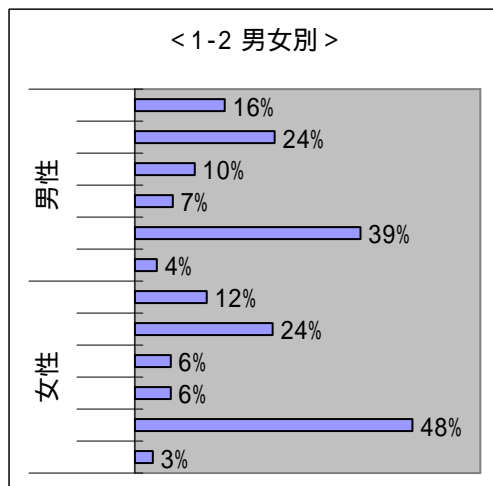
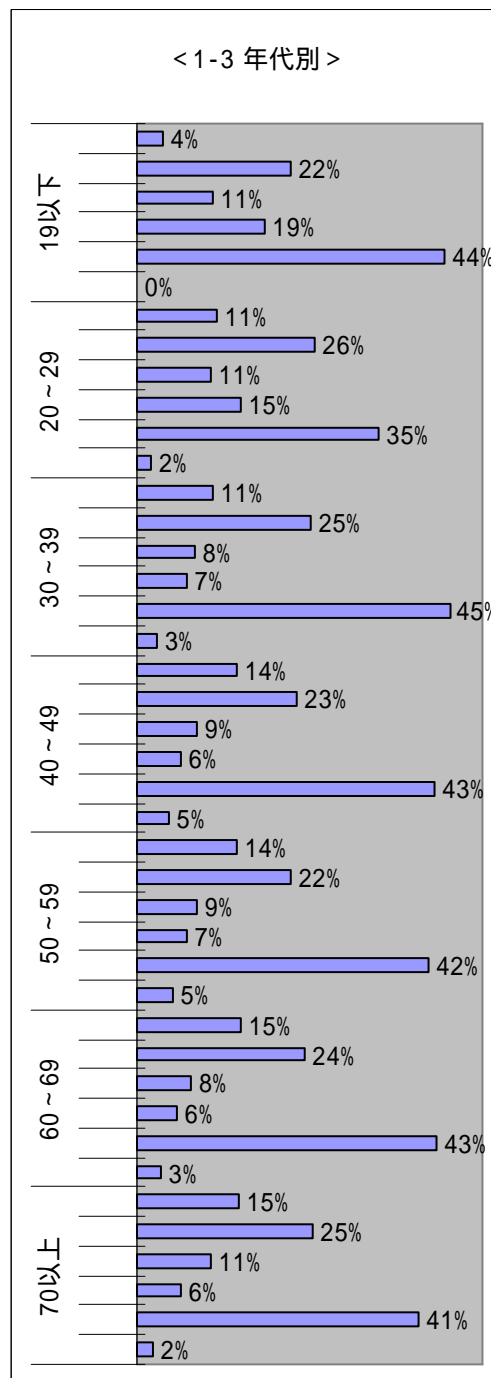
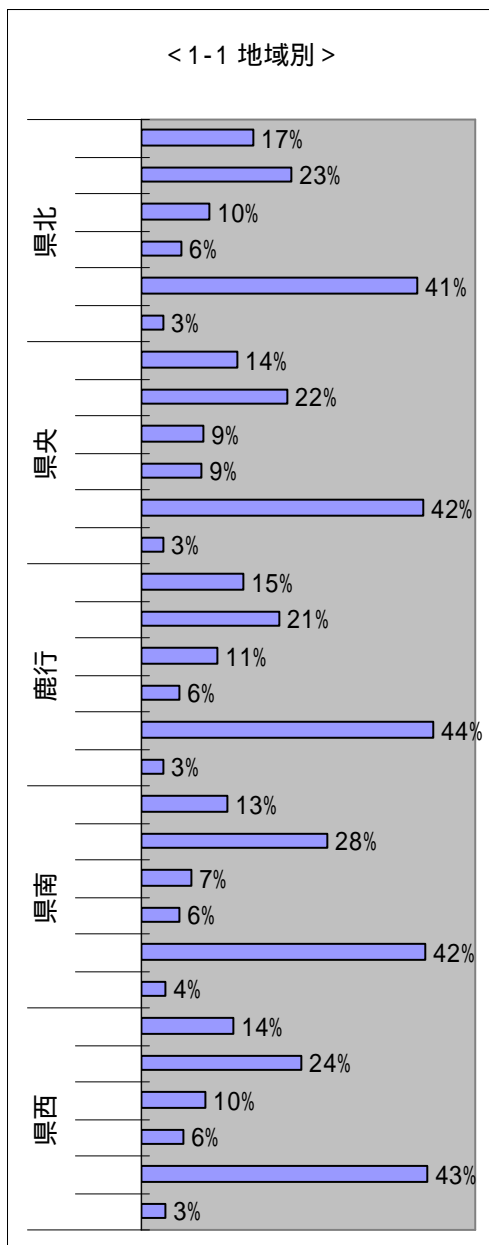
<全体>

- ・消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立(42%)
- ・つくば・東海などの科学技術を活かした産学官連携による先端産業の創出(24%)
- ・ベンチャー企業の育成や新たな事業分野へ進出する企業の支援(14%)
- ・世界と競争できるような企業の誘致推進(9%)
- ・空港など広域交通ネットワークを活用した国内外に開かれた観光の拡大(7%)
- ・その他(4%)



全体では、産業大県の実現には、特に「消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立」に力を入れていくべきという意見が42%と最も多く、次いで「つくば・東海などの科学技術を活かした産学官連携による先端産業の創出」を求める意見が多い。地域別、男女別で見た場合、男女とも全体と同じく「いばらき農業の確立」が4割を超えている。年代別では、20歳代では35%と4割に届いていないものの、全ての年代で「消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立」を求める声が一番多い。

# 産業大県づくりについて



ベンチャー企業の育成や新たな事業分野へ進出する企業の支援  
 つくば・東海などの科学技術を活かした産学官連携による先端産業の創出  
 世界と競争できるような企業の誘致推進  
 空港など広域交通ネットワークを活用した国内外に開かれた観光の拡大  
 消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立  
 その他

< その他の主な意見 >

- ・ 中小企業の支援を充実させてほしい
- ・ 既存の地元企業を守ることが大切
- ・ 福祉や医療、教育、環境産業に力を入れてほしい
- ・ 公共交通や道路を整備してほしい
- ・ 茨城の露出度を上げるブランドの創造を
- ・ 教育を充実させて優秀な人材を育てるべき
- ・ 人口流出を抑え若い人の雇用を促進し過疎化を防ぐべき
- ・ 地産地消の推進を
- ・ 茨城は農業県であり、県として農業にもっと力を入れてほしい
- ・ 遊休農地活用による企業型農業の推進
- ・ 林業等自然を活かしたベンチャー企業と連携した産業を創出
- ・ 商店街が寂れているので活性化に力を入れてほしい
- ・ 「産業大県」ばかり考えて地球温暖化にならないように、自然を第一に考えてほしい
- ・ 勢いある県南に交付金の増額をすべき。県北との不公平感を感じる
- ・ 県北にもっと目を向けてほしい
- ・ 茨城に住めばゆりかごから墓場まで安心できるというような福祉立県を
- ・ 大きな税収が見込める企業を誘致すべき
- ・ 地元の人が多数働ける企業誘致
- ・ 中国韓国ロシア等の新興国の企業を誘致
- ・ 県央道境三和インター設置工事で首都圏ネットワークの拡大を
- ・ 県産品のPR不足を感じる。取り組みも知らせる等の努力が必要
- ・ 地場産業の育成を
- ・ つくばだけでなく県内全体を見てほしい
- ・ 老人介護等の介護ビジネスの推進を
- ・ 県内農産物の海外輸出を（メロン、さつまいも等）
- ・ 茨城大学工学部の活用を
- ・ 安全安心ブランド野菜を作ること
- ・ 首都の台所としての良質低価格の農産品の提供
- ・ 住みやすい県 No. 1 を目指す
- ・ 大切なことは民間の活力。官は支援のみ
- ・ 太陽光発電、IT等新しい産業に力を入れるべきだ
- ・ 地域の活性化なくては大県になりえない
- ・ 都内や成田羽田空港内にアンテナショップを創設してはどうか？メロン、スイカ、ほしいも、ブドウ、ナシ、栗等をPRしてほしい

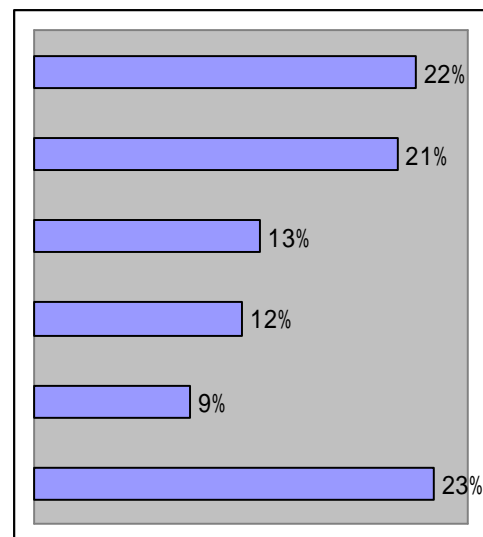
## 茨城空港について

国内線の確保を求める声や、近県の需要の喚起による利用客の増に期待する声が多い

**問 2** 茨城空港は平成 22 年 3 月、小美玉市に開港予定です。より多くの航路を確保するためどのような取り組みを行うべきと考えますか（2 つまで をつけてください）

< 全体 >

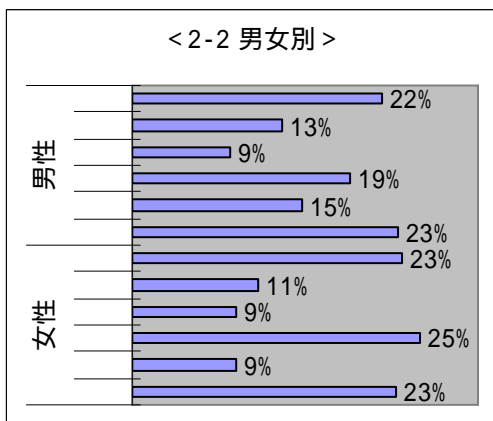
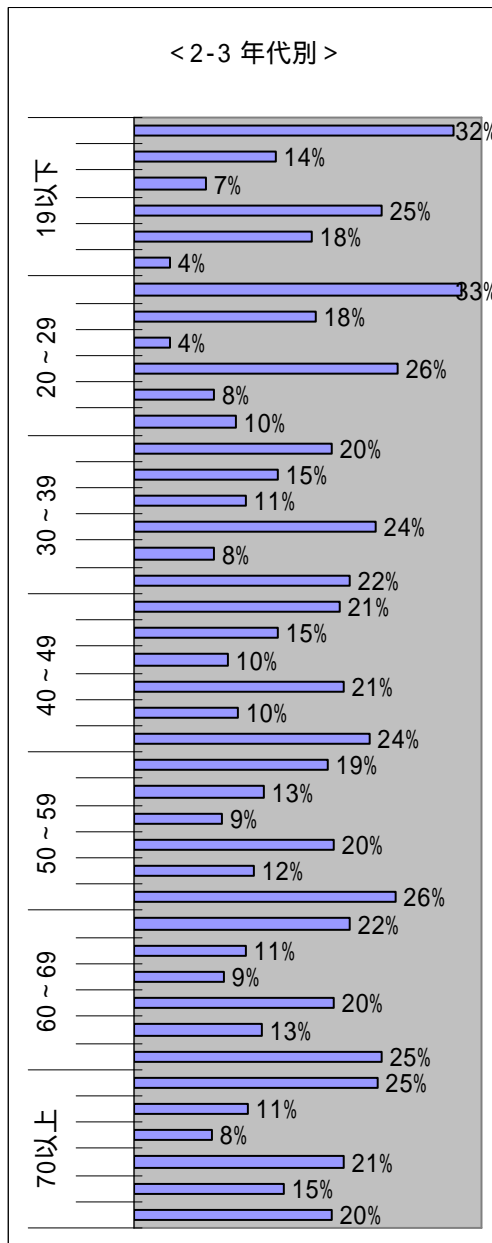
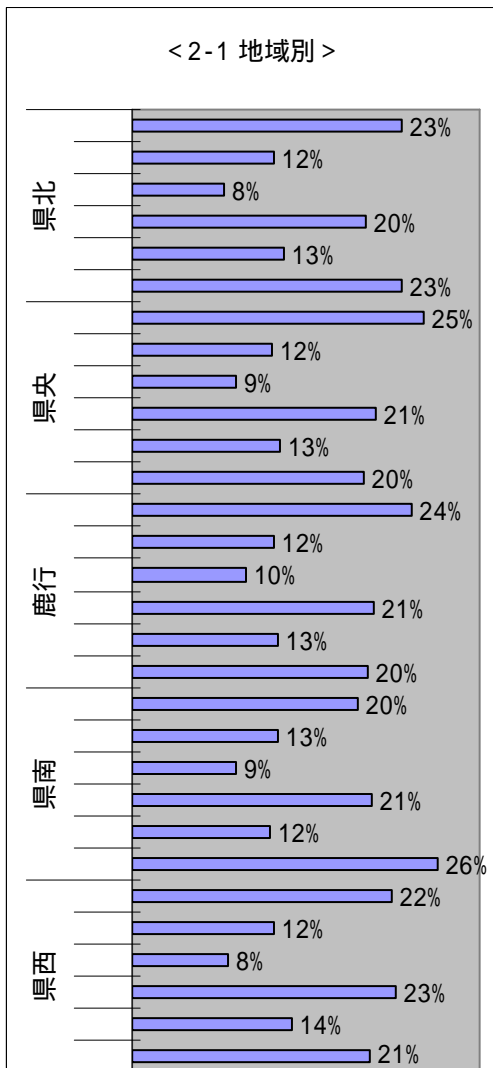
- ・ 様々な手段を講じ国内線の確保に引き続き努力する (22%)
- ・ 県内、近県の需要を喚起する取り組みを積極的に行う (21%)
- ・ 東アジア等外国からの需要を喚起する取り組みを積極的に行う (13%)
- ・ LCC（格安航空会社）等海外の航空会社に就航を働きかける (12%)
- ・ チャーター便の就航を働きかける (9%)
- ・ その他 (23%)



全体では、「国内線の確保」と「県内や近県の需要を喚起する取り組みを積極的に行い利用客の増につなげてほしい」という意見が多い。

地域別に見ると、多少の差はあるものの、どの地域でも「国内線の確保」と「県内や近県の需要喚起による利用者増」を求める声が多くなっている。男女別で見ると、やはり「国内線の就航」と「県内や近県の需要喚起」の2つが多いが、男性は「国内線の就航」の方が、女性は「県内や近県の需要喚起」の方が少し多い。年代別で見ても、「国内線の就航」と「県内や近県の需要喚起」の2つが多いが、30歳未満と60歳以上では「国内線の確保」を求める声が、40歳以上50歳未満では、「県内、近県の需要喚起」がわずかに多い。また、空港への不安や疑問、開港反対論、問題点、期待、提案など様々な意見が寄せられ、県民の茨城空港への関心の高さが感じられる。

茨城空港について



様々な手段を講じ国内線の確保に引き続き努力する  
 LCC(格安航空会社)等海外の航空会社に就航を働きかける  
 チャーター便の就航を働きかける  
 県内、近県の需要を喚起する取り組みを積極的に行う  
 東アジア等外国からの需要を喚起する取り組みを積極的に行う  
 その他

< その他の主な意見 >

- ・TXを空港までの延伸、つくばと空港間のモノレールを検討してほしい
- ・アクセスの充実を。交通の便が悪すぎる。特に鉄道、バス、アクセスが悪くは国内外誰も利用しない
- ・空港からJR常磐線への連結、常磐道への連結道路など、交通機関の確保を
- ・首都圏からの（安価な）アクセス確保を。 鉄道（空港線） 公共バス路線 高速バス空港行きなど
- ・航路は少なくともうまく運営できる方法を探して欲しい
- ・ビジネスジェットの誘致・駐留基地に
- ・空港を作るならアクセスが楽で混雑しない、羽田のかわりになる便利な空港にしてほしい
- ・札幌・大阪・福岡・沖縄の路線をぜひ確保してほしい
- ・JAL、全日空の就航していない国へ飛ばす。南太平洋、南西太平洋の島国へ直行便を出す。又はグアム・マニラ及び経由していく便の開拓を
- ・グアム、サイパン、ハワイ行きの便、アメリカ・オーストラリア・西欧からの直行便の就航、または旅行会社とのタイアップによるチャーター便を
- ・韓国のインチョン空港を参考に。ひとつのデパート、テーマパーク、観光地の感覚で作ってほしい
- ・観光ヘリの発着、観光業界との連携強化、観光地等の整備とルート創出
- ・県全体を積極的に海外にアピールすべき。他県と同じでなくインパクトがある宣伝をし、茨城にまた来たいと思わせる
- ・県内利用者の拡大が基本。目先だけでなく長期的戦略を
- ・他の小さな空港行きの便の就航を検討してみても。例えば夏・冬休みのみ出すとか。運行便を国内でも乗り換えの必要な所にダイレクトにいける便を就航させるなど
- ・発着料をはじめとする経費を無料にし、格安航空会社のハブ空港とする
- ・物流（エア）の関東拠点に。茨城港との連携を目指す
- ・物流だけでなく人の交流にも使うべき。知的人材をチャーター便で呼び講演を県内で行いアピールする
- ・立地を生かし貨物便の就航を目指す。物流拠点として成田のような役割をさせる
- ・茨城に空港は不要。税金の無駄使いなので中止すべきである
- ・なぜ茨城空港が必要なのか理解できない。県民への説明が不十分である
- ・これ以上財政を圧迫するようなことをすべきでない
- ・赤字になっても税金を使わないでほしい。赤字になった場合の責任の所在を明確にしてほしい

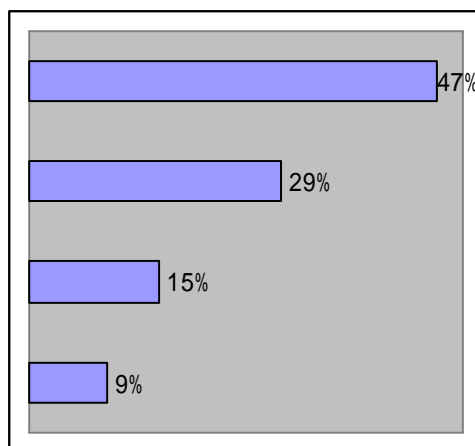
## 森林湖沼環境税について

「税が新たに導入されていることを知らなかった」のは 30 歳代の 64% に。全県的に「生活排水や事業所排水等の汚濁削減による湖沼・河川の水質保全」を求める声が多い

**問 3-1** 県では、森林や霞ヶ浦をはじめとする湖沼・河川などの保全・整備の推進のため、平成 20 年度から 5 年間、「森林湖沼環境税」を導入しており、県民の皆様方から原則として 1 人あたり年額 1,000 円を個人県民税に上乗せする形で納税していただいております。あなたは、この森林湖沼環境税を知っていますか。(1 つに をつけてください)

< 全体 >

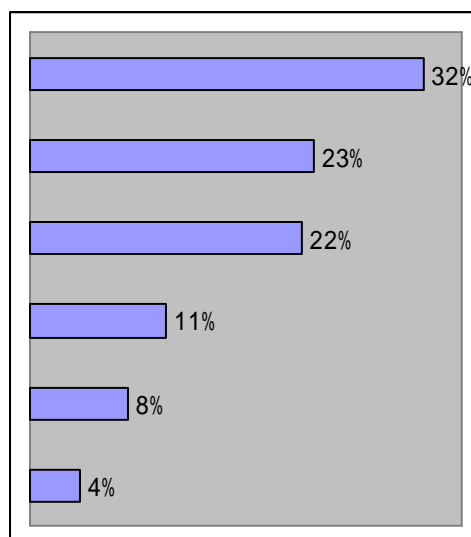
- ・ 導入されていることを知らなかった (47%)
- ・ 納税していることは知っているが使われ方はよくわからない (29%)
- ・ 名前は聞いたことがあるが詳しいことはわからない (15%)
- ・ よく知っている (9%)



問 3-2 また、あなたは、この森林湖沼環境税をどのように使って欲しいと思いますか。(2つまで をつけてください)

<全体>

- ・生活排水や事業所排水等の汚濁削減による湖沼・河川の水質保全(32%)
- ・間伐などによる森林の保全・整備(23%)
- ・身近な平地林、里山林の保全・整備(22%)
- ・子供などへの環境教育の充実(11%)
- ・県産木材の利用促進(8%)
- ・その他(4%)

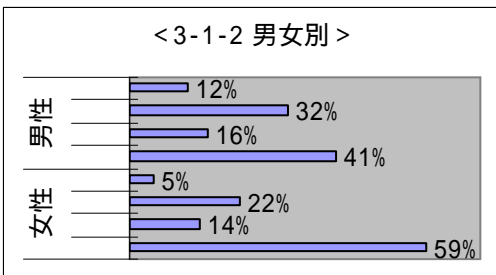
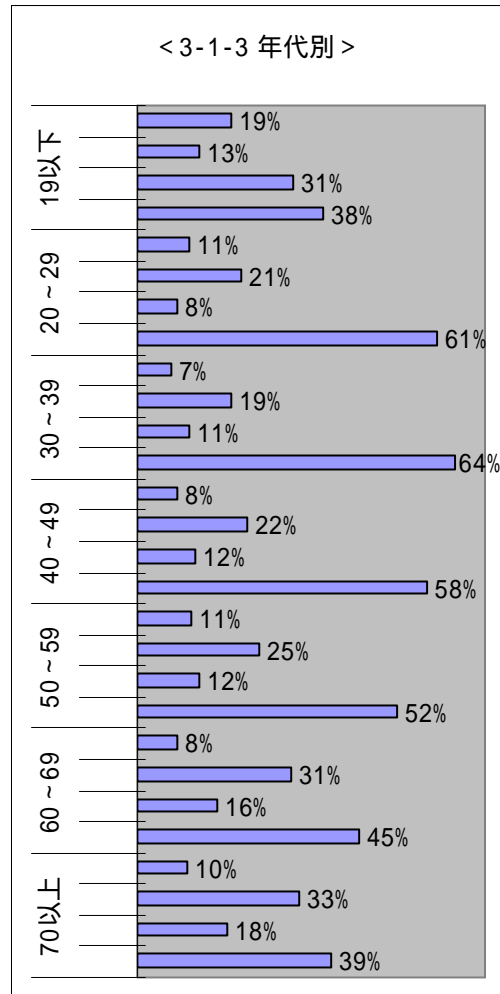
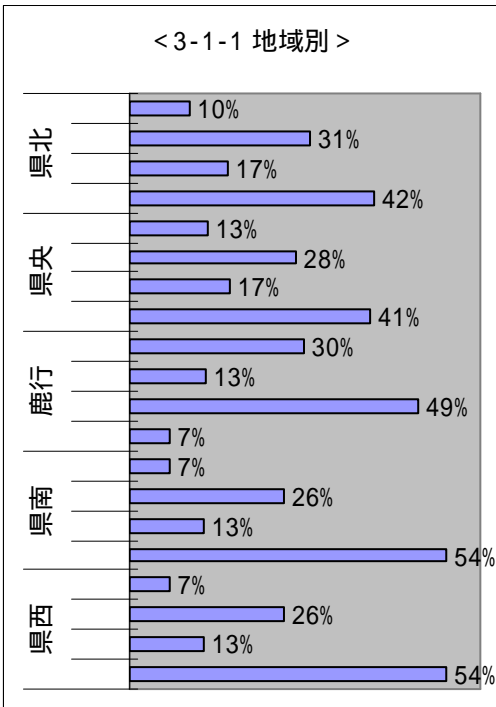


森林湖沼環境税の認知度について、全体で見ると、「森林湖沼環境税が導入されていることを知らない」と答えた人が47%であり、地域別に見ても、全ての地域において「税が新たに導入されていることを知らなかった」という意見が最も多く、特に県南では5割を超えている。性別で見ると、男性は41%、女性は59%が「税が新たに導入されていることを知らなかった」と答えている。年代別に見ると、30歳代の64%が「税が新たに導入されていることを知らなかった」と最も多く、県民への更なる税の周知や広報が必要と思われる。

税の用途について、全体で見ると、湖沼・河川の水質保全を望む声が多くなり、次に森林や平地林・里山林の保全整備を望む声が多い。地域別に見ても、多少の差はあるが、どの地域においても「湖沼・河川の水質保全」と森林や平地林・里山林の保全整備を望む声が多く、男女別で見ても同様である。年代別で見ても大きな差はない。



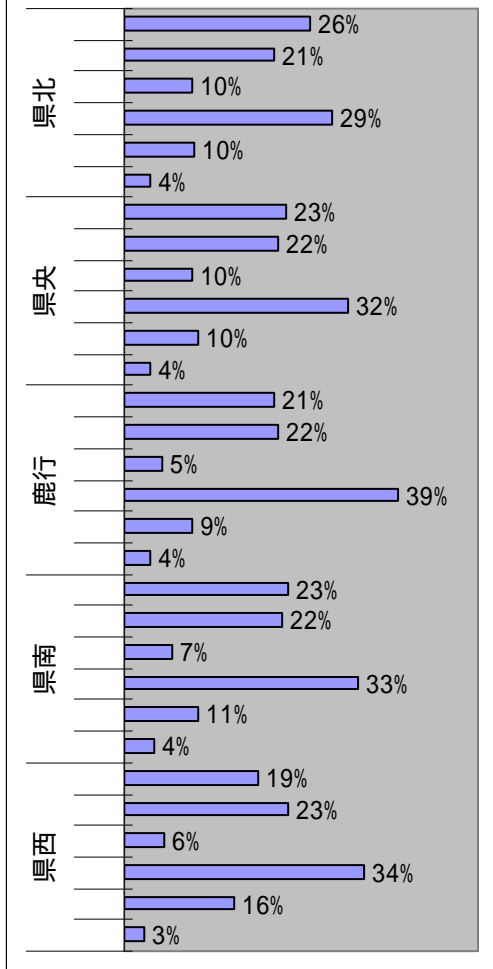
森林湖沼環境税について(認知度)



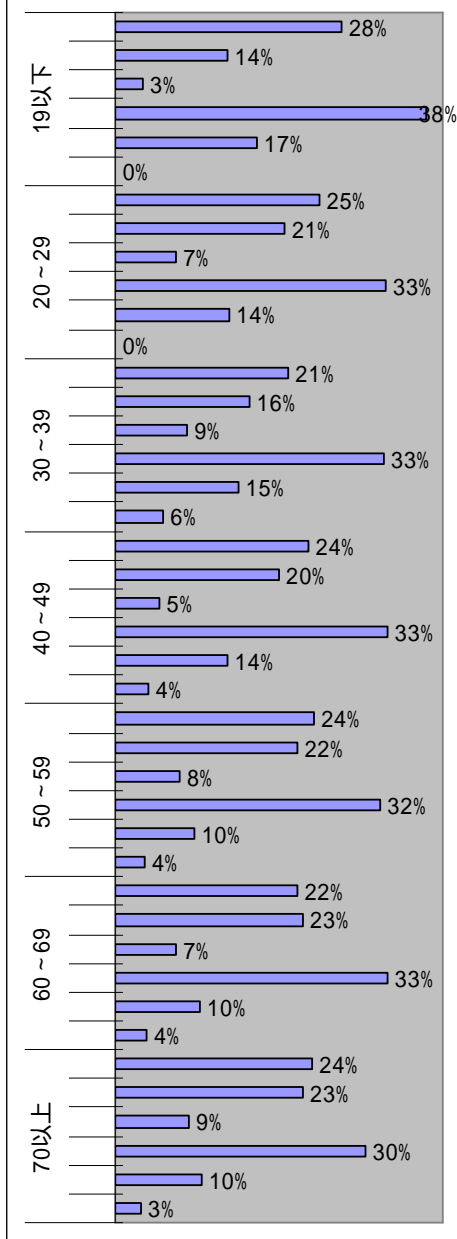
よく知っている  
 納税していることは知っているが  
 使われ方はよくわからない  
 名前は聞いたことがあるが  
 詳しいことはわからない  
 導入されていることを知らなかった

森林湖沼環境税について(使途)

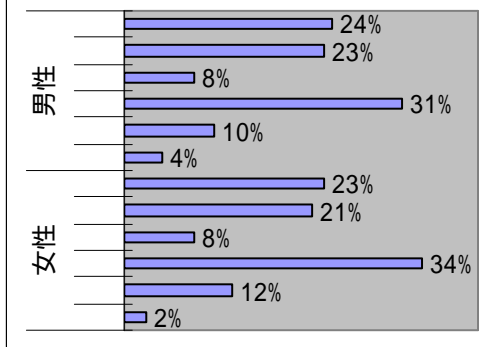
< 3-2-1 地域別 >



< 3-2-3 年代別 >



< 3-2-2 男女別 >



- 間伐などによる森林の保全・整備
- 身近な平地林、里山林の保全・整備
- 県産木材の利用促進
- 生活排水や事業所排水等の汚濁削減による湖沼・河川の水質保全
- 子供などへの環境教育の充実
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 杉などの花粉症対策を進めてほしい
- ・ 森林湖沼環境税をどのように使ったのか、県民へ報告をしてほしい
- ・ 県民へのPRが不足している
- ・ エコや自然維持より自然災害対策に
- ・ 泳げる位綺麗な川を取り戻してほしい
- ・ 屋敷・宅地に植木を植えてCO2削減し温暖化防止。樹木、緑の多い宅地は免税に
- ・ 下水道の整備、推進
- ・ 河川の上流では様々な努力をしても下流地区ではただその恩恵を受けるだけ。税に格差を
- ・ 外来魚を名産品として流通できるよう検討してほしい
- ・ 間伐材の利用促進技術開発
- ・ 現実の用途の状況詳細を県民に公表してほしい
- ・ 個人の山林間伐、税金に反対
- ・ 個人所有林の保全整備等
- ・ 湖沼・河川の水質保全とともに水辺の公園化及び遊歩道などを流域沿いに整備
- ・ 雑草の除去、バイオマス燃料開発、代替燃料の製油所作成、県北の山林を重点に整備
- ・ 事業内容を県民に十分説明すること
- ・ 全て均等割りから徴収するという方法を改正し自動車税に応分の負担を広める方式にすべき（埼玉方式に）
- ・ 特別税を中止し現行税でやりくりすべき
- ・ 林業や農業を担う後継者の育成
- ・ 林業で生活が成り立つような仕組みが必要
- ・ 毎年重点地域を1箇所設定し環境整備を実施（県西地域・県南地域など）
- ・ 本来課税措置には反対。取っている以上目に見えた確実な成果をあげよ。
- ・ 不要木の伐採の補助資金。老齢化、金銭的に伐採したくても伐採できない木が町中にあふれている
- ・ 美味しい水の確保につながるようにしてほしい
- ・ 納税者が理解できるよう説明と使用してほしい。使用すればその成果がどうであったかの情報が欠けている
- ・ 生物多様性を考えた森づくり。筑波山のブナ林の保全・保護
- ・ 森林のオーナー制などを取り入れオーナーには無税で
- ・ 今後の日本を背負う子供たちの育成に努力してほしい
- ・ 現在、手を入れていない山がほとんどで、原生林のようなヤブのような状態。山は水の源でもあるので整備したい。

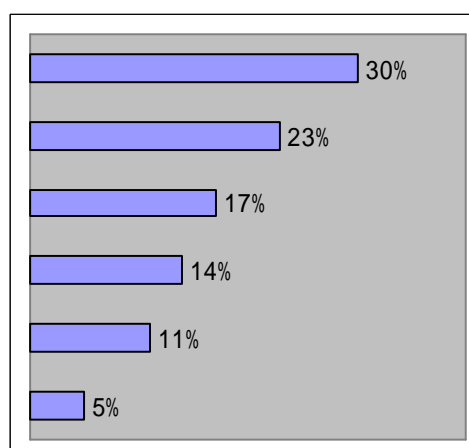
## 雇用対策について

全体では「企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の確保」が最も多いが、19歳以下では「就職相談会や各種メディアを通じての雇用情報の的確な提供」が最も多い

問4 あなたは、雇用対策として、次の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか（2つまでをつけてください）

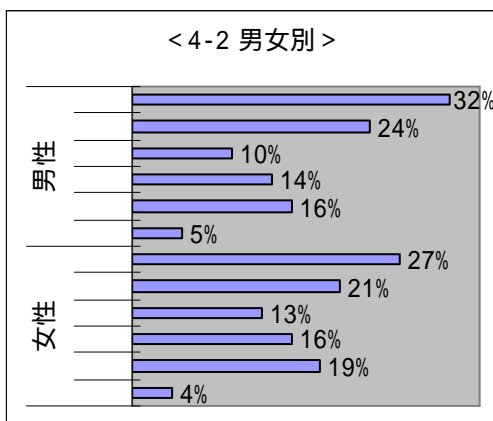
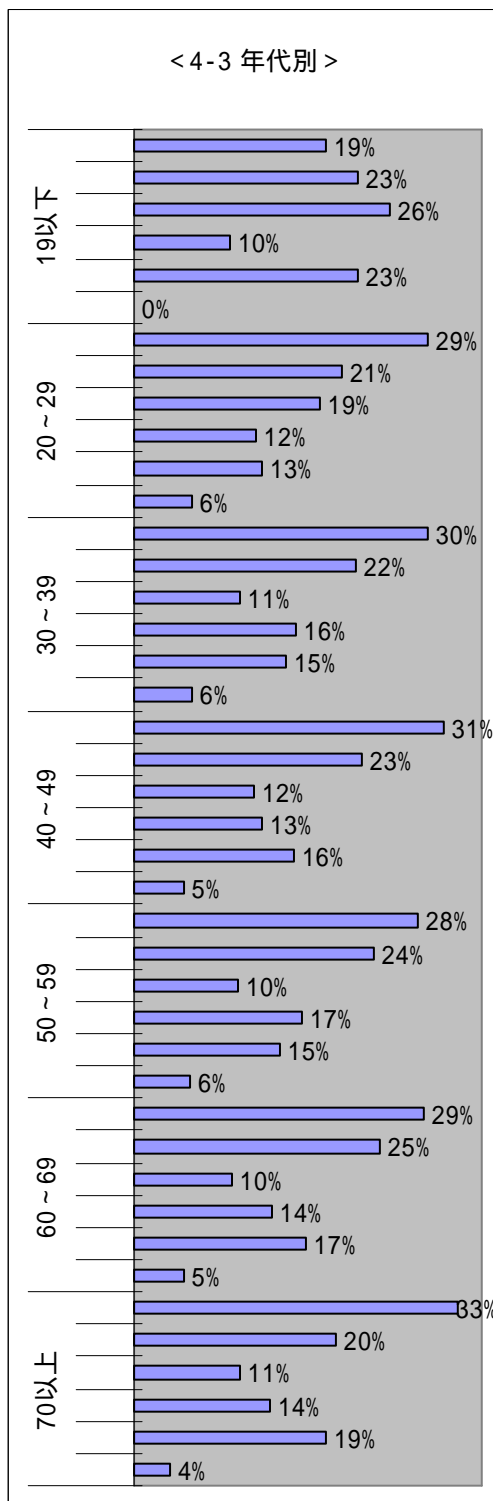
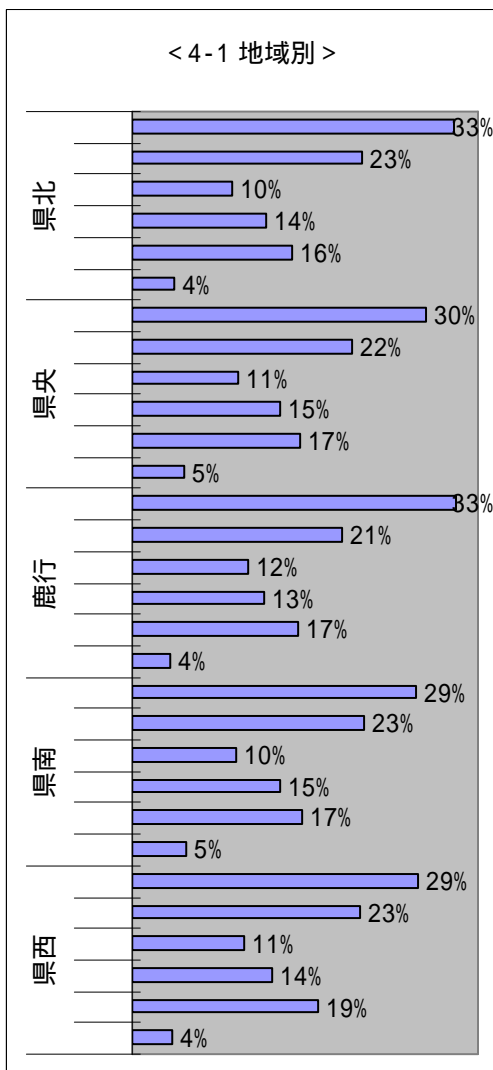
<全体>

- ・ 企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の確保(30%)
- ・ 行政がやってきた仕事を民間に移すことによる雇用の場の確保(23%)
- ・ 教育の場における職業訓練の充実(17%)
- ・ ワークシェアリング（仕事の分かち合い）の推進の働きかけ(14%)
- ・ 就職相談会や各種メディアを通じての雇用情報の的確な提供(11%)
- ・ その他(5%)



全体で見た場合、また全ての地域において、男女別においても、「企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の確保」が最も多い結果となった。次いで「行政がやってきた仕事を民間に移すことによる新たな雇用の創出」が多い。年齢別に見ると、19歳以下では「就職相談会や各種メディアを通じての雇用情報の的確な提供」が26%と最も多いが、20歳代以上の世代では「企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の確保」が最も多い。

# 雇用対策について



- 企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の確保
- 行政がやってきた仕事を民間に移すことによる雇用の場の確保
- 就職相談会や各種メディアを通じての雇用情報の的確な提供
- ワークショップ(仕事の分かち合い)の推進の働きかけ
- 教育の場における職業訓練の充実
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 医療・福祉分野における雇用施策を充実させる
- ・ 農水産業への就業人口の拡大を図る施策を
- ・ エコ、環境保全などでの新たな産業育成を
- ・ これから人材が必要とされる分野（介護福祉など）へ人材が移動しやすくするための施策を
- ・ 60歳以上が働ける場を。高齢者の雇用促進をしてほしい
- ・ 30代以上の人の教育の場を設けて欲しい
- ・ 60歳で退職し、雇用を若い人に譲ること
- ・ シルバー人材センターの強化と活用を推進してほしい
- ・ すでに立地している企業の支援を
- ・ 「なぜ働かなければならないのか」の教育が必要
- ・ ハローワークの業務効率化と優秀スタッフの増強を
- ・ 市役所等における非正規職員の廃止か正規化を図る。無駄な仕事とムダな経費削減
- ・ もっと就農しやすいように法整備を
- ・ 安定した職場の確保。若者が希望の持てる仕事ができるよう尽力を
- ・ 医療、介護資格取得への補助金制度の検討を
- ・ 介護医療分野、教育現場への人材投入が必要
- ・ 学校教育の充実を図る
- ・ 企業の業績回復以外にない。景気回復を待つ
- ・ 休耕地を利用して失業者等の就農支援をする
- ・ 国内自給率50%確保のための新規農業者へのバックアップ。資金及び農地の確保
- ・ 障害者の働く作業所への支援を。軽度障害者が一般企業で働けるようにしてほしい
- ・ 森林保全事業を失業者対策に活用する
- ・ 正社員としての雇用の場の確保を
- ・ 働く気持ちがあれば働く場所はあると思う。若い人の気力が失われていると思う。若い者の気力を奮い立たせる方策を
- ・ 派遣労働者をなくし、雇用の安定を
- ・ 福祉や農業・林業では生活できないので人手不足。給与助成を
- ・ 遊休農地を利用した農事会社の県営事業を
- ・ 超勤規制や年休取得推進などで働き手を多く雇用する
- ・ 最低賃金のアップを
- ・ 県南地区（取手・守谷・牛久・龍ヶ崎等）では茨城で仕事を持っている人の方が少ないと思う。ワークシェアリングで食べていけるのか疑問
- ・ 空港のスタッフを地元で募集するべき

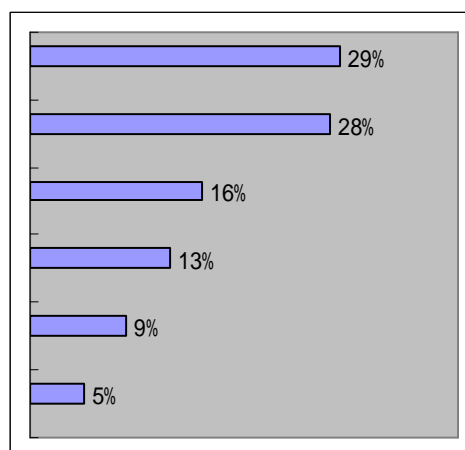
## 福祉の充実について

20歳以上60歳未満の年代では、「在宅で介護している家族などへの支援」を求める意見が最も多い。

問5 あなたは、福祉の充実について、次の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか（2つまで をつけてください）

### <全体>

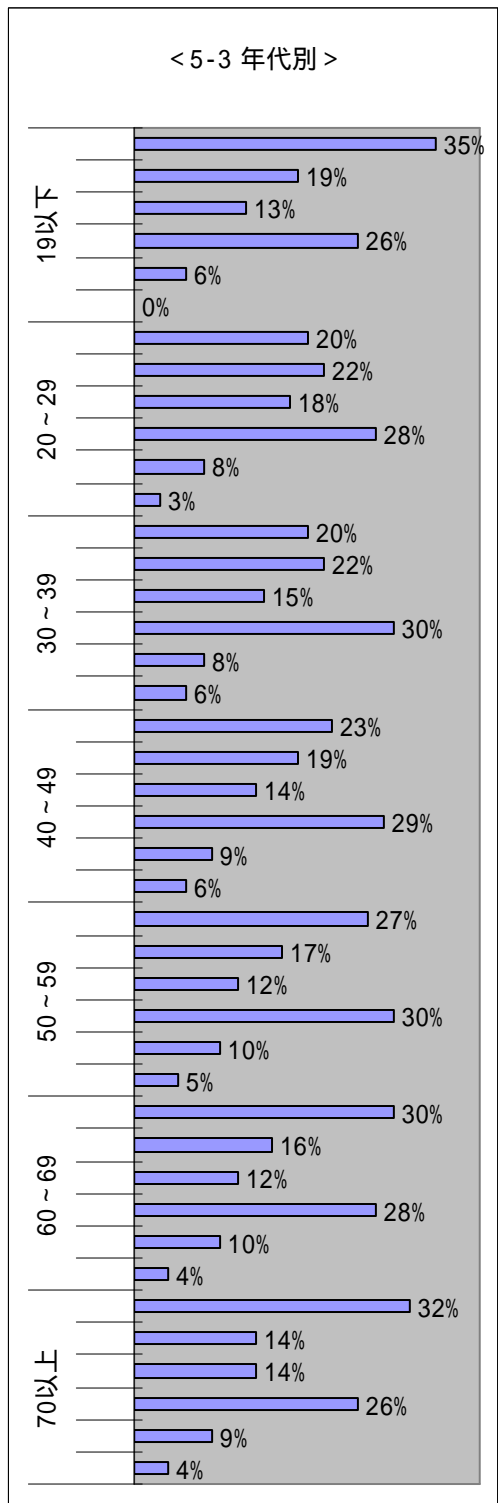
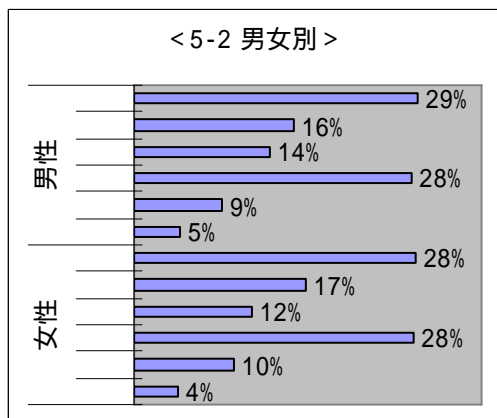
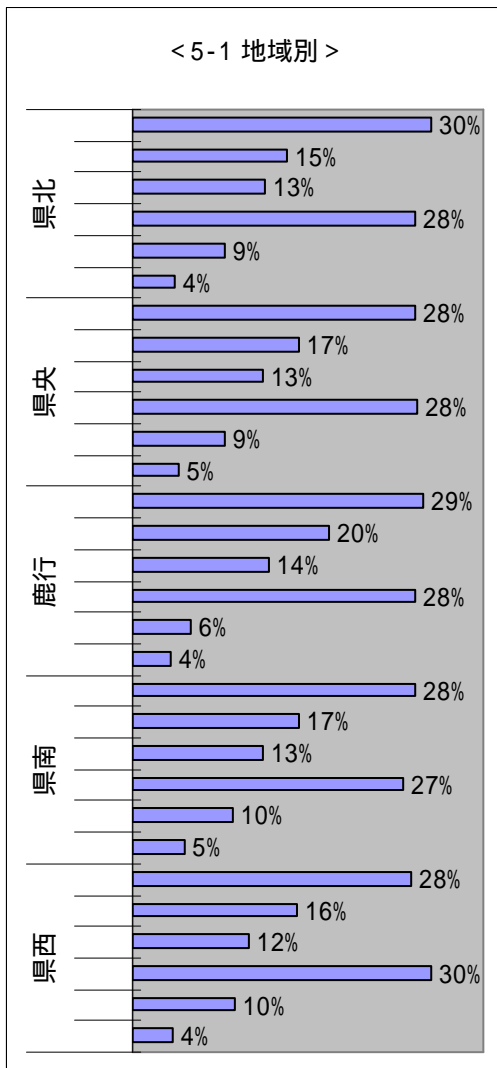
- ・高齢者や障害者が、地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実(29%)
- ・在宅で介護している家族などへの支援(28%)
- ・介護保険サービスや障害者に対する福祉サービスの充実(16%)
- ・ホームヘルパーなど、福祉関係の人材育成(13%)
- ・生涯学習や社会参加の支援などの生きがい対策(9%)
- ・その他(5%)



全体では、「高齢者や障害者が、地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実」「在宅で介護している家族などへの支援」の2項目が多い。

特に地域差や男女差は見られず、「在宅介護の家族への支援」と「高齢者や障害者が地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実」が多い。年代別に見ると、20歳代から50歳代までの世代では「在宅介護家族への支援」が最も多く、19歳以下と60歳以上の世代では「高齢者や障害者が、地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実」が最も多い。

# 福祉の充実について



高齢者や障害者が、地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実  
 介護保険サービスや障害者に対する福祉サービスの充実  
 ホームヘルパーなど、福祉関係の人材育成  
 在宅で介護している家族などへの支援  
 生涯学習や社会参加の支援などの生きがい対策  
 その他



< その他の主な意見 >

- ・福祉の現場で働く人の労働条件等、待遇改善を
- ・ヘルパーや介護士などの賃金を上げ、人材確保をすべき
- ・障害者に関してはまだサービスが足りない。これからは子育ての若い世代と障害者に光を当てるべき
- ・介護保険料が高すぎる
- ・これ以上介護保険料の負担を増やさず、ボランティアの積極的利用を
- ・家族が世話をするのではなく本人の年金で支払える安価な施設を。北欧の福祉を参考にすべき
- ・家庭環境に恵まれない児童への支援を
- ・これからの日本を背負っていく子供の虐待問題、茨城県の実態は。高齢者以上に福祉の手が差し伸べられているのか
- ・介護施設の拡充
- ・在宅介護サービスの充実を
- ・介護保険は高齢者ではなく障害者に使用してほしい
- ・介護保険を納めていても利用するのにまた毎月多額の費用がかかるので施設に預けることが出来ない。家族の負担軽減を
- ・介護保険料の使途が不明なので平易な説明が必要
- ・各自の健康の向上を目指す政策を
- ・義手義足の全額無料補助金。引きこもりの人の無料カウンセリングの実施を
- ・共働き世帯が多いので親の介護について相談できる場所を数多くしていただきたい
- ・在宅介護、ホームヘルパーにも限度がある。安心して入院できる施設を。
- ・生活保護者を見直し、不正受給をなくす
- ・貸し出し器具等、もっと大いに宣伝（料金等）してください
- ・地域の人々の助け合い活動の支援を
- ・低所得者でも安心して入れる老人ホームの増設を
- ・独居老人宅への訪問介護、生活支援
- ・母子世帯の支援
- ・老老介護の手助けを
- ・シルバー人材の福祉施設での活用を
- ・うつ病など精神疾患患者の職場復帰制度の確立を
- ・家族が助け合う教育を
- ・優良老人ホームの情報を提供してほしい
- ・起立・歩行が困難な要支援者に対して（介護度1～2、要支援）バスの割引、駅のエスカレーター、老人の日の送り迎えの足などが欲しい
- ・福祉財源の確保を

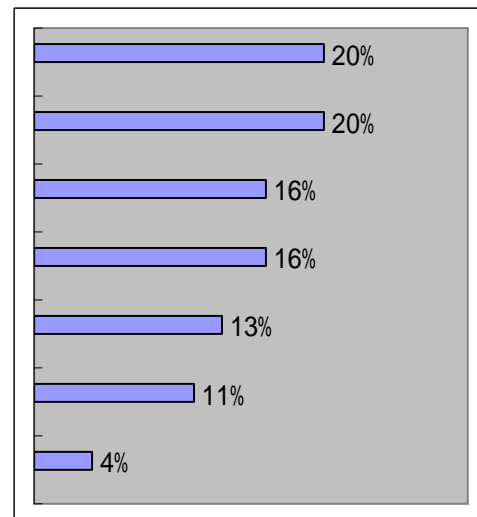
## 子育て支援について

40歳代以下の世代では「子育てへの経済的支援」が最も多い

**問6** あなたは、子育ての支援について、次の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで を付けてください)

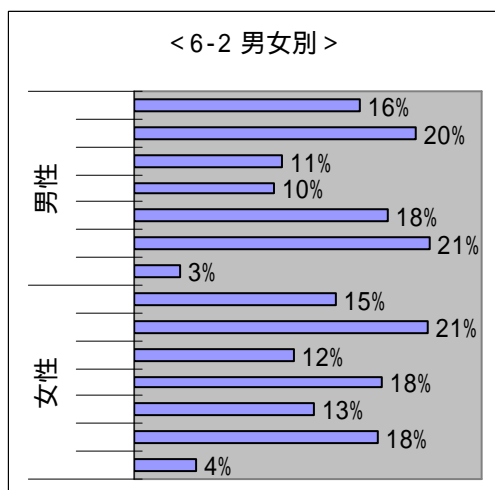
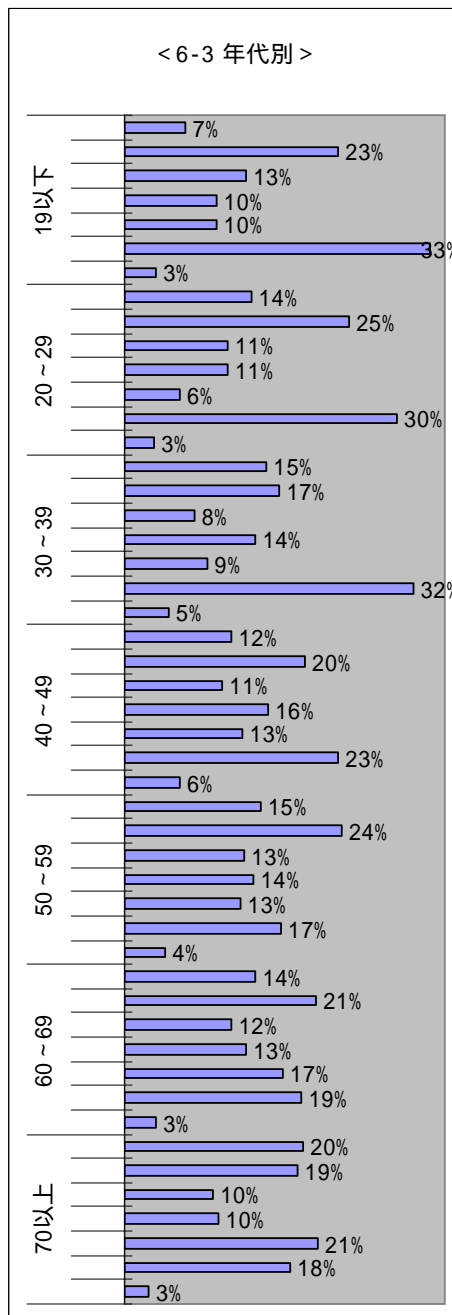
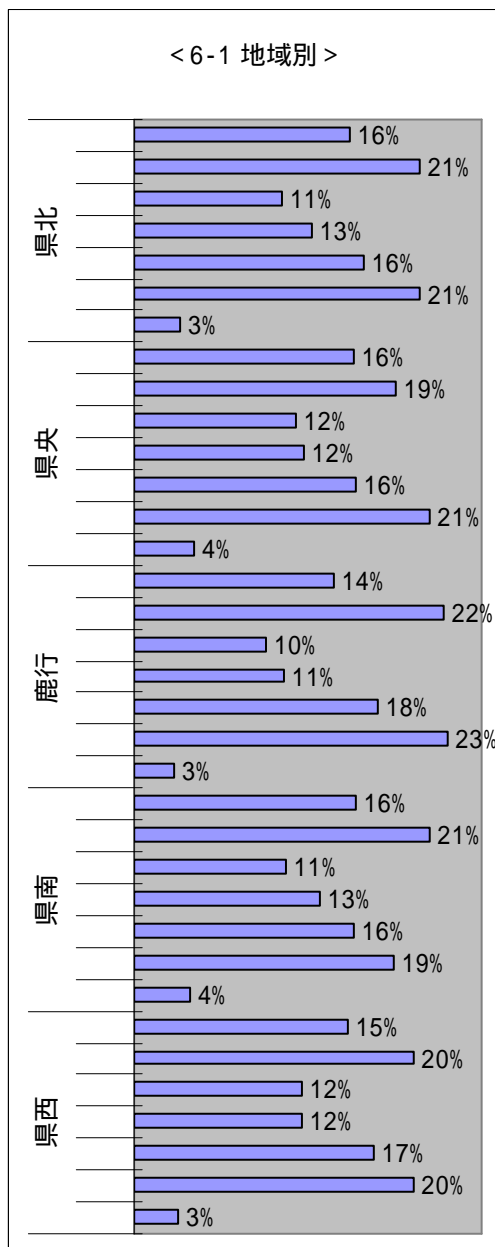
### <全体>

- ・ 保育サービスの拡充（受け入れ対象児の拡大、延長保育の推進など）(20%)
- ・ 子育てへの経済的支援(20%)
- ・ 幼稚園と保育園の一元化(16%)
- ・ 保育所などの保育施設の充実(16%)
- ・ 放課後、子供を預かる児童クラブなどの充実(13%)
- ・ 地域で子育てを支援する体制づくり(11%)
- ・ その他(4%)



全体で見ると、「保育サービスの拡充」と「子育てへの経済的支援」を求める意見がそれぞれ2割と多く、次に幼稚園と保育園の一元化や保育所などの充実が続く。全ての項目が10%から20%の間に入っており、子育て支援についてはあらゆる支援が求められていると考えられる。地域に見ると、どの地域でも上位2項目は「保育サービスの拡充」「子育てへの経済的支援」である。男女別に見ると、男性よりも女性の方が「放課後、子どもを預かる児童クラブなどの充実」を望む声が多いのが特徴的である。年齢別に見ると、30歳代以下の世代では子育てへの経済的支援を望む声が30%を超えている。50歳代から60歳代では、「保育サービスの拡充」が最も多く、70歳代以上では「幼稚園と保育所の一元化」が最も多い。

# 子育て支援について



- 保育所などの保育施設の充実
- 保育サービスの拡充(受け入れ対象児の拡大、延長保育の推進など)
- 地域で子育てを支援する体制づくり
- 放課後、子供を預かる児童クラブなどの充実
- 幼稚園と保育園の一元化
- 子育てへの経済的支援
- その他

< その他の主な意見 >

- ・安心して産める環境を作って欲しい
- ・子育て支援の前に結婚対策や不妊治療のサポートをしてほしい
- ・自分の子は自分で育てるのが基本。雇用の安定が何よりの子育て支援
- ・安易に自分の子を他人に任せるのはいかなものか
- ・医療費無料化（義務教育終了まで） インフルエンザ予防接種の補助金
- ・育児の大切さ素晴らしさの教育充実
- ・一番大変なのは高校からの学費。ここに焦点をあてた対策を
- ・学校の空き室を利用して保育所にしてはどうか
- ・学童クラブを 6 年生まで引き上げてほしい。子供に留守番させて仕事は無理
- ・義務教育までの親の費用面での負担をなくしてほしい
- ・共稼ぎしなくても生活できるように
- ・親が育てることを基本にした政策を
- ・高齢者でゆとりのある人が地域の子育てに協力できる場をつくる
- ・公共の幼稚園・保育所の拡充
- ・仕事がなく働く場所がない人が子供を預けて職安にも行けないのが現実である
- ・不妊治療への経済的支援
- ・子育てに対する職場の意識を根本から変える時期にきていると思う。新たな意識のアピールが必要
- ・子供が安心して遊べる公園、空き地の整備
- ・障害児を持つ家庭への支援
- ・親の労働時間短縮・適正化
- ・待機児童の解消、希望児童の全員入所
- ・病児保育、一時保育などの充実。母親が職業を持っていなくても必要なときにはサービスを受けられる場の拡充（有料でも可）
- ・保育に携わる人材の育成
- ・幼稚園と保育所と福祉設備を併合させ老人と子供たちを一緒の環境に
- ・保育所の無料化を
- ・保育の夜間引き受け体制の整備
- ・子育て支援を企画している企業への支援
- ・高齢者の手助け（近所・知人）があれば安心。有償で
- ・いたれりつくせりの子どもの支援には疑問
- ・育児ノイローゼの母親の無料カウンセリングの実施
- ・駅前保育所など、共稼ぎ夫婦の支援強化
- ・居場所づくり、休日学校開放を
- ・結婚ができるような施策を

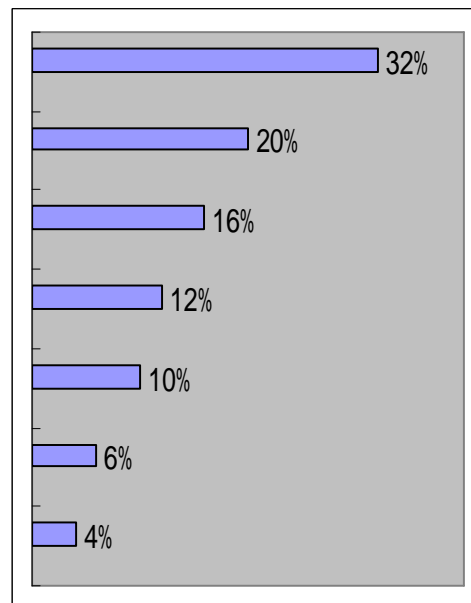
## 農業の振興について

全ての地域で「後継者や新規就農者の育成」が30%を超え最も多い

問7 茨城県は農業産出額全国第3位の農業大県ですが、一層の農業の振興を図るため、あなたは今、次の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまでをつけてください)

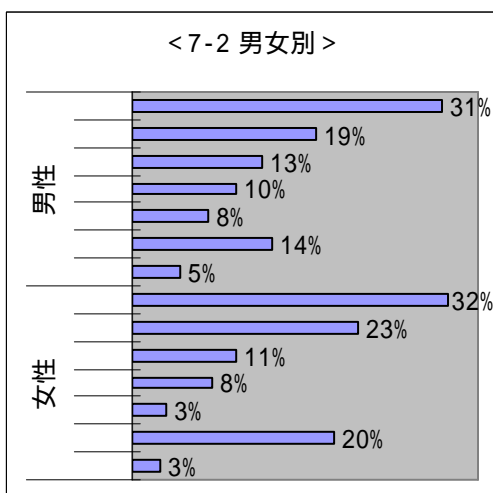
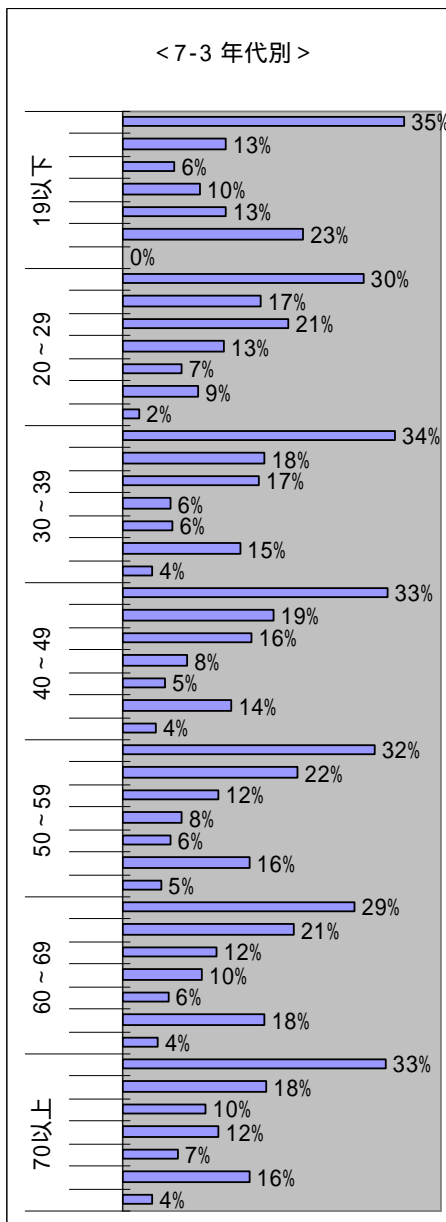
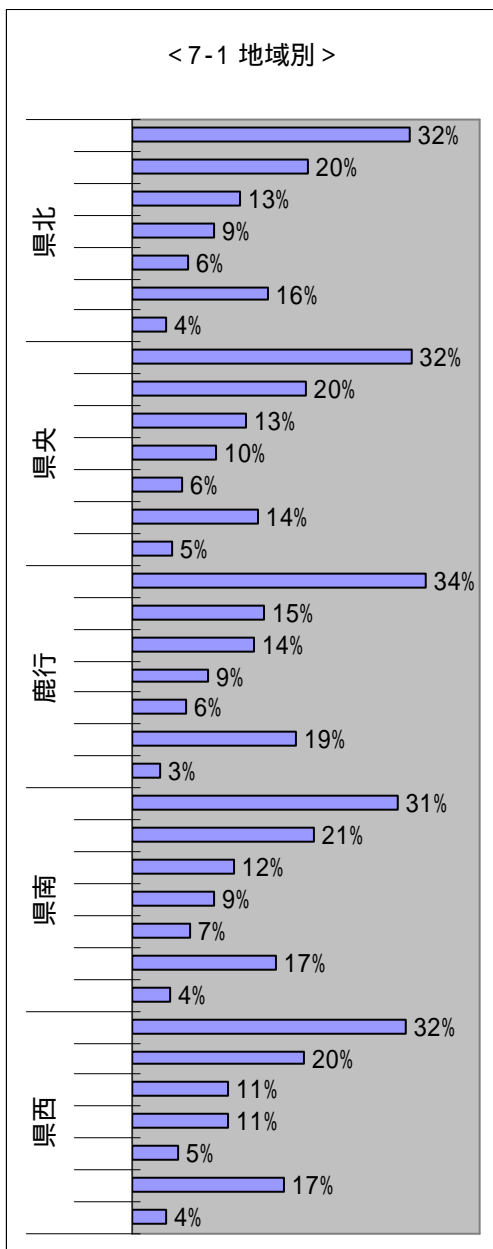
<全体>

- ・後継者や新規就農者の育成(32%)
- ・地産地消(地域でとれた食材を地域内で消費する取り組み)の推進(20%)
- ・農薬等の適正な使用や堆肥の利用による、環境に優しい農業の推進(16%)
- ・優れた農畜産物のブランド化などによるイメージアップと市場の拡大(12%)
- ・都市と農山村の交流の拡大(農産物直売所の開設など)(10%)
- ・農畜産家の生産規模の拡大と生産性の向上(6%)
- ・その他(4%)



全体で見ると、後継者や新規就農者の育成を望む声が32%と最も多く、次に「地産地消の推進」が続く。地域別に見ても同様の傾向が見られるが、鹿行地域では「農畜産家の生産規模の拡大と生産性の向上」を望む声が19%と多い。男女別では、環境に優しい農業の推進を望む声が女性に多かった。年代別では、19歳以下は「環境に優しい農業の推進」を、20歳代以上40歳代未満の年代では「優れた農畜産物のブランド化などによるイメージアップと市場の拡大」を望む声も多い。

農業の振興について



- 後継者や新規就農者の育成
- 地産地消(地域でとれた食材を地域内で消費する取り組み)の推進
- 優れた農畜産物のブランド化などによるイメージアップと市場の拡大
- 都市と農山村の交流の拡大(農産物直売所の開設など)
- 農畜産家の生産規模の拡大と生産性の向上
- 農薬等の適正な使用や堆肥の利用による、環境に優しい農業の推進
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 農業を企業化し、若者の新規就農を促進すべき。
- ・ 耕作放棄地の利用促進を。
- ・ 農薬の空中散布をやめてほしい、など
- ・ 農家での農業体験の実施
- ・ イノシシ・ハクビシン・カラスなどの駆除に力を入れるべき
- ・ テレビ・新聞記事へ売り込み、無料で宣伝。茨城は宣伝が下手
- ・ もうかる農業を
- ・ もっと知事が茨城をアピールすべき
- ・ 安価なものを多く売るよりおいしくてヘルシーなものを少量高級感を出して売り出す
- ・ 安心して農業ができる所得と価格の保証
- ・ 意欲のある人が就農しやすくなる法整備
- ・ 学校給食等に地元農産物をもっと取り入れてほしい
- ・ 活用していない、あるいは活用不十分の農地が多いので、雇用対策と絡ませるのが望ましい
- ・ 休耕地を活用した産業の育成。新食材（小麦粉代替等）、バイオ原料等
- ・ 減反政策の廃止
- ・ 若い人が夢を持てる農業へ。農業振興は過疎対策になる
- ・ 農業の収入をサラリーマン同様とする
- ・ 農業の所得を増す指導支援
- ・ 植物工場の開発、個人農業を集約した農業企業の育成
- ・ 食の安全など人にやさしい農業の育成、農産物の中国等への輸出
- ・ 生ゴミから堆肥変換事業の拡大
- ・ 大きな企業との食材契約の推進
- ・ 大都市への県産品の提案、情報収集
- ・ 誰でも農業に参加できる体制づくり
- ・ 東京に近い利点を生かすべし
- ・ 農業で生計を立てられるようにすること。環境として農地・農業をとらえること
- ・ 農業と研究所との連携
- ・ 米作農家への補助金制度の見直しを国レベルで行う
- ・ 無農薬や有機野菜等しっかりとしたブランドを育て農業だけで食べていける農業を目指す
- ・ 遊休地を利用した都市住民の農園を積極的にすすめる
- ・ 酪農・畜産農家と水稻・畑作農家の交流連携。堆肥の有効利用
- ・ 旅館・ホテル・飲食店の方々は茨城農業の実態を知らなさすぎ。関連資料を配布し、研修会、交流会を持ち茨城食材のPRをすべき

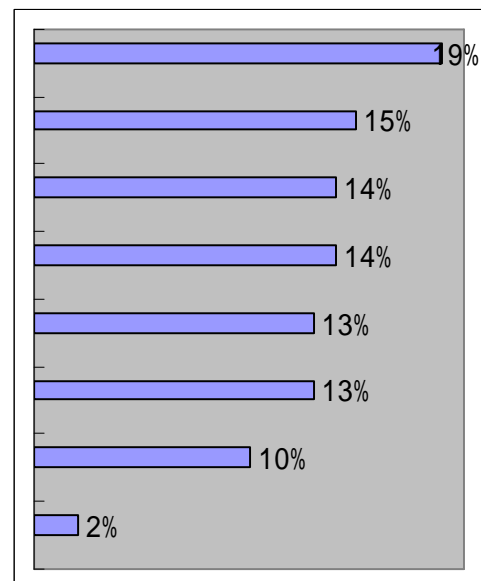
## 食の安全・安心について

全地域で「食の安全・安心に関する情報提供」が最も多い

**問 8** あなたは、食の安全・安心の実現のため、次の中でどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまでをつけてください)

<全体>

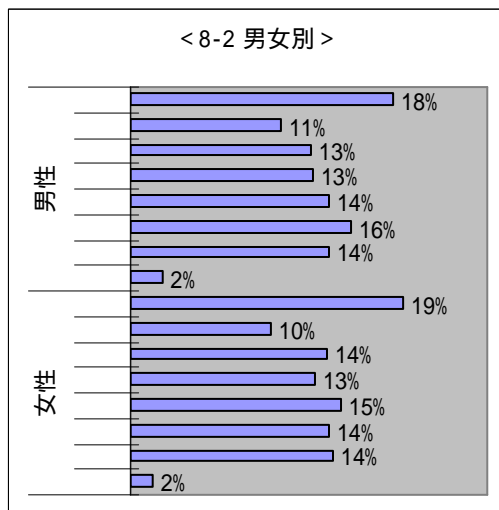
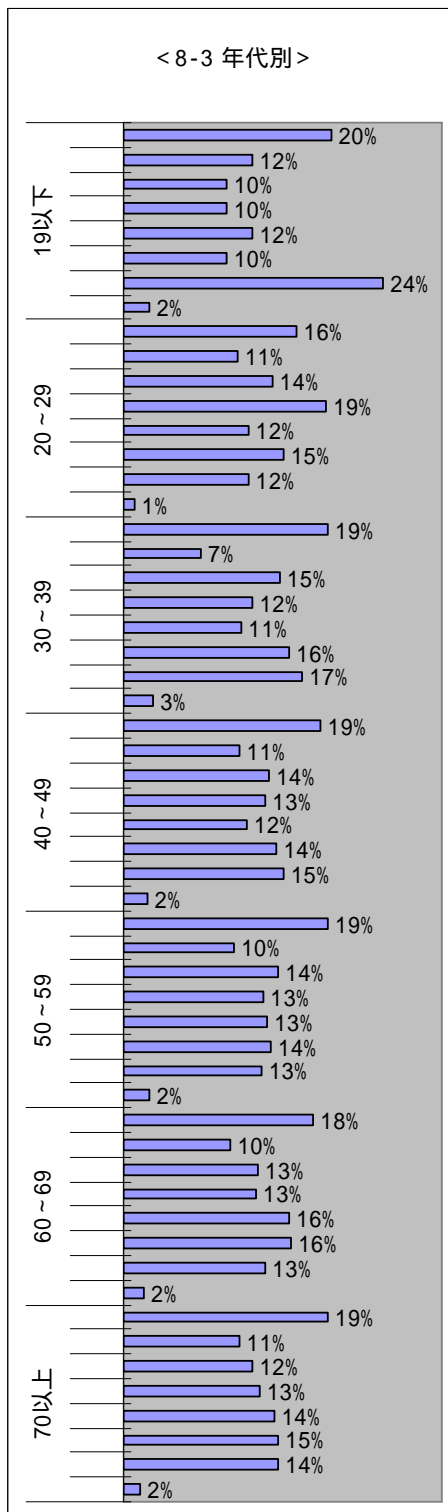
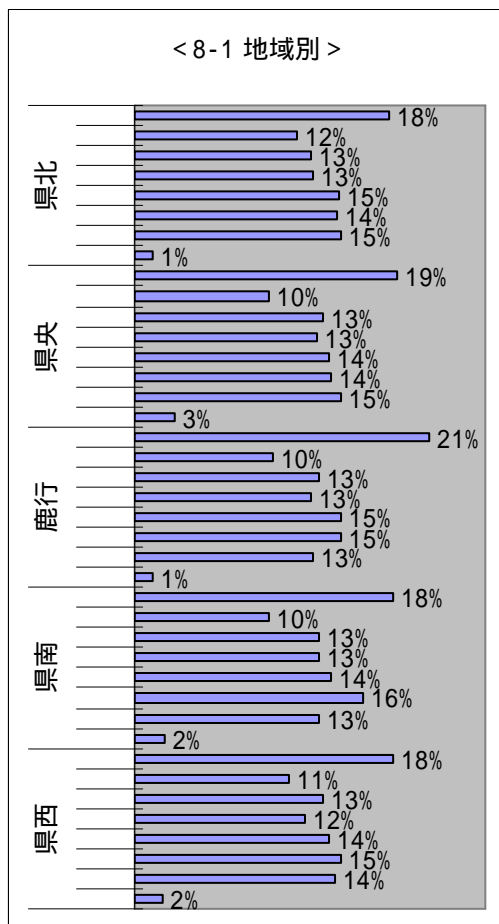
- ・食の安全・安心に関する情報提供(19%)
- ・生産者、事業者に対する監視・指導の強化(15%)
- ・食品や農産物に対する安全確保のための基準の強化(14%)
- ・食品の検査の強化(14%)
- ・地域の食文化や食品の安全に関する知識を深める食育の推進(13%)
- ・県内で生産された農畜産物や食品についての認証制度の推進(13%)
- ・生産者や事業者と消費者が交流し話し合う場の設置(10%)
- ・その他(2%)



全体で見ると、食の安全・安心に関する情報提供を求める意見が19%と最も多いが、全項目に回答が分散している。地域別に見ると、全地域で「食の安全・安心に関する情報提供」が最も多く、その他の項目は大きな差が見られない。男女別でも同様である。年代別に見ると、30歳以上の年代では「食の安全・安心に関する情報提供」が最も多いのに対し、19歳以下は「食品の検査の強化」、20歳代は「県内で生産された農畜産物や食品についての認証制度の推進」が最も多くなっている。



# 食の安全・安心について



- 食の安全・安心に関する情報提供
- 生産者や事業者と消費者が交流し話し合う場の設置
- 地域の食文化や食品の安全に関する知識を深める食育の推進
- 県内で生産された農畜産物や食品についての認証制度の推進
- 食品や農産物に対する安全確保のための基準の強化
- 生産者、事業者に対する監視・指導の強化
- 食品の検査の強化
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 法令違反者には厳罰を。今は甘すぎる
- ・ 消費者が添加物等の知識を得るための教育の場を設けてほしい
- ・ 安全安心なものを造る適正価格を消費者が理解し、プライドを持った生産者・事業者を育てる
- ・ 売れなければ売れなくてもいい、買うなら買えというような考えが根強いのでは
- ・ スーパーなどで安い野菜が売られているが農家は大変だと思う。安全のためには手間がかかるものです
- ・ トレーザビリティの徹底と普及 PR
- ・ 茨城県のは安全安心だとするため厳しいほどの基準を設ける。それが市場拡大につながると思う
- ・ 外国産品の産地表示の徹底
- ・ 学校給食を地元の野菜で作ったメニューとし子供のころから食の安全の意識を高めていく
- ・ 学校教育でも食の大切さや安全性、危険性、害があるものなのを取り入れてほしい
- ・ 検査の結果と違反企業名とその背景の公表
- ・ 子供たちに対する食教育の充実
- ・ 消費者も形にこだわらず自然栽培のものを購入し食することをもっと勧めるべき
- ・ 食の安全にあまりにも神経質では
- ・ 食品偽装は外からは分かりづらい。内部告発者や正しいことをした会社などを守って欲しい
- ・ 生産者、販売者のモラル向上
- ・ 農産物を担う人へのバックアップ強化。トップの人が現場を本当に知ること
- ・ 優良な生産者への経済的な補助や消費者への紹介
- ・ 有機栽培の推進、減農薬、EM 農法の推進を
- ・ 保健所の指導強化を

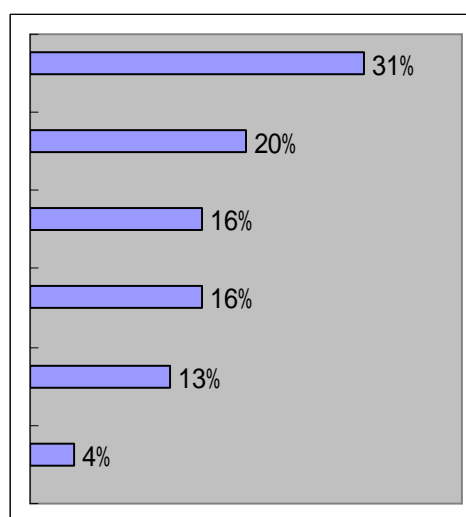
## 景観行政について

全地域で「景観に配慮した公共事業の推進」が最も多いー

問9 景観に対する県民の関心が高まっている中、今後、次の中でどのような取り組みを強化していくべきだと思いますか。(2つまでをつけてください)

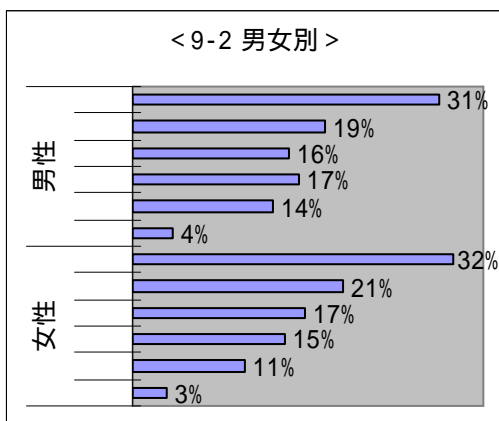
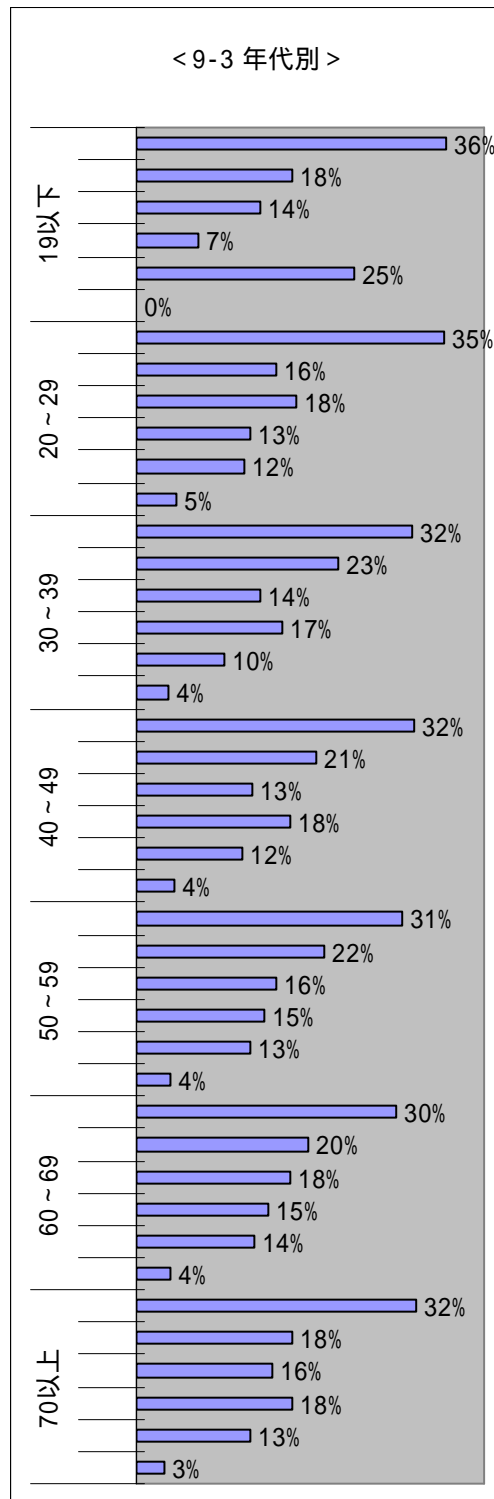
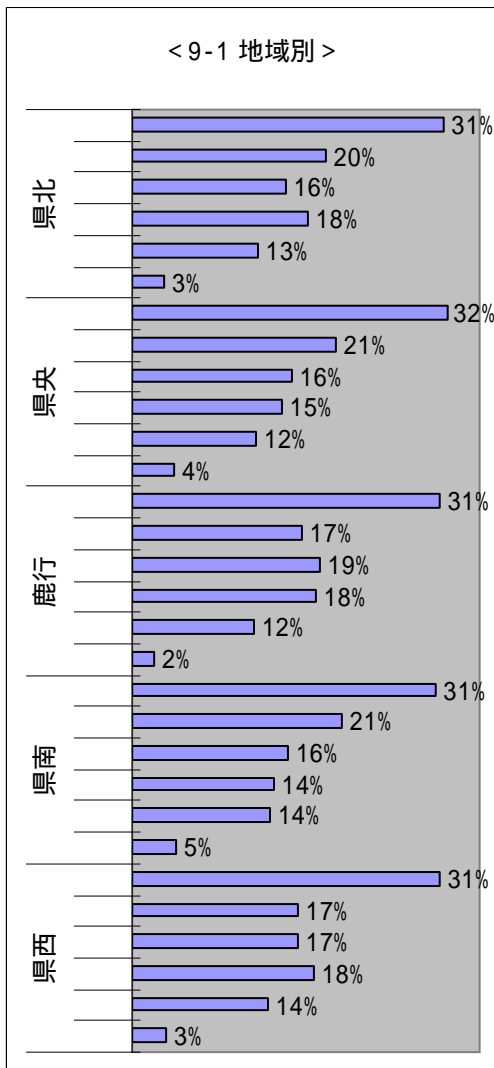
<全体>

- ・景観に配慮した公共事業の推進(31%)
- ・建物の色や形などに対する規制や誘導(20%)
- ・景観育成のための、行政からの経費助成(16%)
- ・地域住民の参加によるボランティア活動(16%)
- ・景観に関する講習会や表彰の実施などの啓発活動(13%)
- ・その他(4%)



全体で見ると、景観に配慮した公共事業の推進を求める意見が31%で最も多い。地域別で見ても、全地域で「景観に配慮した公共事業の推進」が最も多く、続いて「建物の色や形などに対する規制や誘導」や「地域住民の参加によるボランティア活動」「景観育成のための、行政からの経費助成」などが並んでいる。男女別で見ると、男女とも「景観に配慮した公共事業の推進」が最も多く、次いで「建物の色や形などに対する規制や誘導」が多い。年代別で見ると、全ての年代で「景観に配慮した公共事業の推進」が最も多い。30歳以上60歳未満の年代では2番目に「建物の色や形などに対する規制や誘導」が多いのに対し、19歳以下では「景観に関する講習会や表彰の実施などに啓発活動」、20歳代では「地域住民の参加によるボランティア活動」、70歳以上では「景観育成のための、行政からの経費助成」が多い。

# 景観行政について



景観に配慮した公共事業の推進  
 建物の色や形などに対する規制や誘導  
 地域住民の参加によるボランティア活動  
 景観育成のための、行政からの経費助成  
 景観に関する講習会や表彰の実施などの啓発活動  
 その他

< その他の主な意見 >

- ・電柱・電線の地中化を全県域で実施してほしい
- ・自然景観や歴史的建造物の保護をしてほしい
- ・現状のままでよい
- ・シャッター通りの進行を食い止めるのも景観保持の大切な仕事
- ・フォトスポットの設置
- ・ほったらかしの雑木林の整備を
- ・ボランティアではなく県民全体の意識の高揚が必要
- ・高層マンションの規制強化を
- ・ヨーロッパの都市づくりを参考に
- ・違法看板の撤去を
- ・観光資源の保護を
- ・兼六園は整然としていた。偕楽園も入園料をとってもっと観光客を呼ぶことを考えるべきではないか。歴史的にも水戸は恵まれているのにその努力がなされていない
- ・地域の盛り上がりが大切
- ・地域住民の声を受け止めてくれるシステムを
- ・道路の雑草の除去。廃屋の撤去
- ・豊かな自然を活かしてほしい
- ・いたずら書きへの処罰強化
- ・みだりに公園化せずに現存するものを守る対策を
- ・沿道の樹木へ店舗の照明などを付けさせないよう徹底を
- ・あまり金をかけないでほしい
- ・許可する際しっかり調べて欲しい。出来たらラブホテルということが多々あるようだ
- ・景観に主眼を置いた建築行政を
- ・景観は各々が考えることで、県が干渉すべきでない
- ・景観保全のための法整備を
- ・建物などは時代の進歩（文化）とともに変化するので先々の 10 年～20 年といったプランを総合的に研究する
- ・県民の意識を高める施策を
- ・広告類の取り締まりを（無断で電柱に貼っているなど）
- ・郊外の林道等へ投棄されるごみの撤去と再発防止
- ・産廃業者への規制強化
- ・樹木を多くする。生垣を作るなど

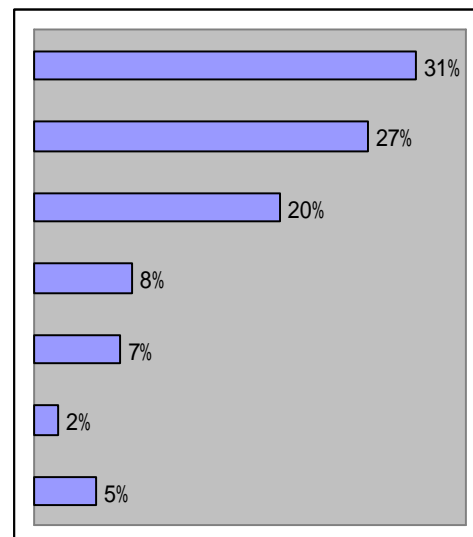
## 道路行政について

高速道路の整備よりも「歩道や自転車道の整備」「市街地の中の生活道路の整備」を求める意見が多い

問10 あなたは、今後の道路整備は次の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか（2つまでをつけてください）

<全体>

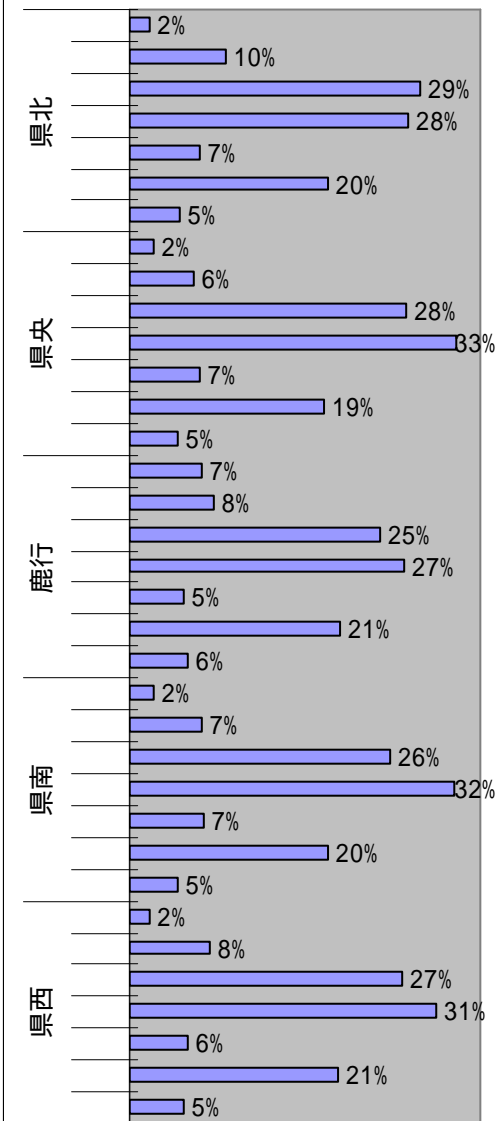
- ・歩道や自転車道の整備(31%)
- ・市街地の中の生活道路の整備(27%)
- ・既存の道路の維持補修(20%)
- ・国道などの幹線道路の整備(8%)
- ・景観・美観に配慮した道路の整備(7%)
- ・高速道路の整備(2%)
- ・その他(5%)



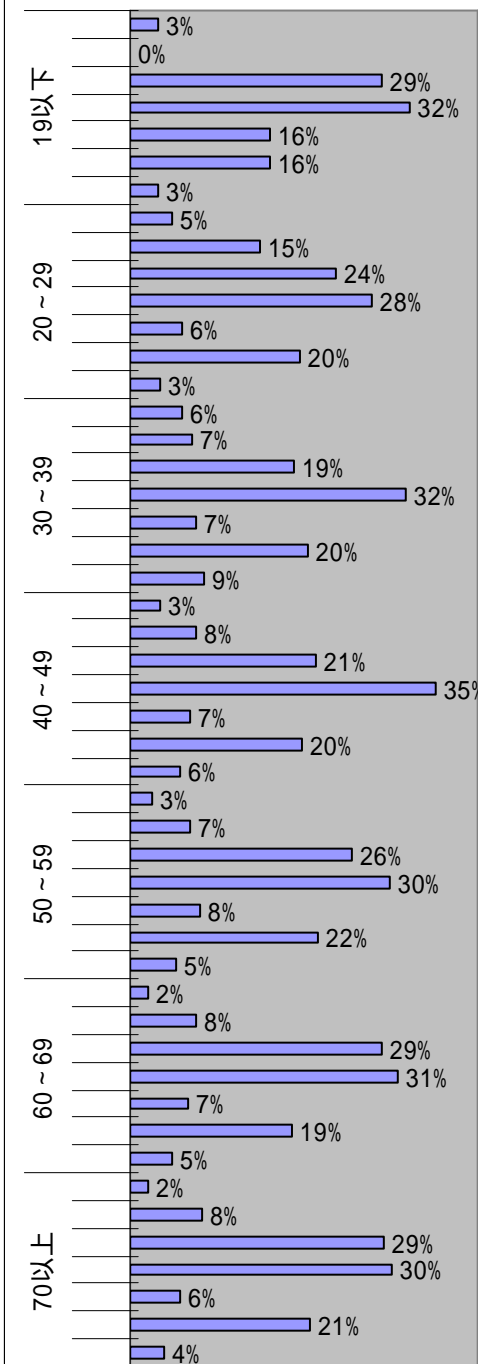
全体で見ると、「歩道や自転車道の整備」が31%と最も多く、「市街地の中の生活道路の整備」「既存の道路の維持補修」が続く。高速道路の整備を望む声は少なく、どちらかといえば、自分たちが普段利用する、地域の身近な道路の整備を望む声が多い。地域別で見ると、県北以外の全地域では「歩道や自転車道の整備」が最も多く、次いで「市街地の中の生活道路の整備」が多い。県北では同じ2項目が上位であるが「市街地の中の生活道路の整備」の方が少し多い。男女別では、男女とも「歩道や自転車道の整備」「市街地の中の生活道路の整備」の順に多く、男女差は見られず、年代別に見てもあまり大きな差は見られない。

道路行政について

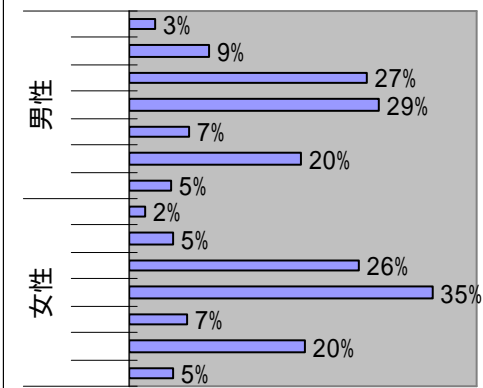
< 10-1 地域別 >



< 10-3 年代別 >



< 10-2 男女別 >



- 高速道路の整備
- 国道などの幹線道路の整備
- 市街地の中の生活道路の整備
- 歩道や自転車道の整備
- 景観・美観に配慮した道路の整備
- 既存の道路の維持補修
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 交通渋滞解消や生活道路として本当に優先されるべきところをきちんと調査して格付けによる整備を行う
- ・ ベビーカーや車椅子が通りやすい道にしてほしい
- ・ 観光地へのアクセス道路整備と駐車場の充実を
- ・ ウォーキングやジョギング可能な道路を
- ・ これ以上の道路整備は不要。既設道路の維持に注力すべき
- ・ スクールゾーンの信号は自動車と歩行者別々にしてほしい
- ・ 通学路にも関わらず歩道が整備されていないくて危険な場所がある。このような生活道路を細かく調べて直してほしい
- ・ 暗い道が多い。街灯を増やしてほしい。街灯が街路樹で隠れているところもある
- ・ 夏季の雑草の処置。放置され安全性もなく見るからに街全体荒れている感じあり
- ・ 学童通学路のガードレール整備
- ・ 危険道路の発見と補修
- ・ 救急車が入れないような道路の土地買収、整備
- ・ 空港アクセス道路（他県から）の整備
- ・ 県北 6 号国道（日立市内）の渋滞対策
- ・ 県内の国道 50 号の 4 車線化を
- ・ 圏央道の早期完成を
- ・ 294 号の歩道は草で歩けないところがある
- ・ 県西地域の町道や国道県道の整備を
- ・ 高速は潮来一太子間に（観光客の利便を図るため）
- ・ 高速道路の無料化
- ・ 高齢者や子供、身体障害者に優しい道路づくり
- ・ 桜川・筑西 IC と TX つくば駅を結ぶ道路の整備
- ・ 山村の道路を良くしてほしい
- ・ 次の世代の負担になるものは全て反対
- ・ 自転車道の整備
- ・ 渋滞が解消できるようバイパスなどの整備
- ・ 生活道路の整備を優先してほしい
- ・ 都市計画道路の計画を先行させてほしい
- ・ 歩道にある電柱撤去を
- ・ 観光名所への案内を分かりやすく
- ・ 立体交差による渋滞緩和を
- ・ 無駄な道路を作らないでほしい
- ・ 歩道の整備をしてほしい



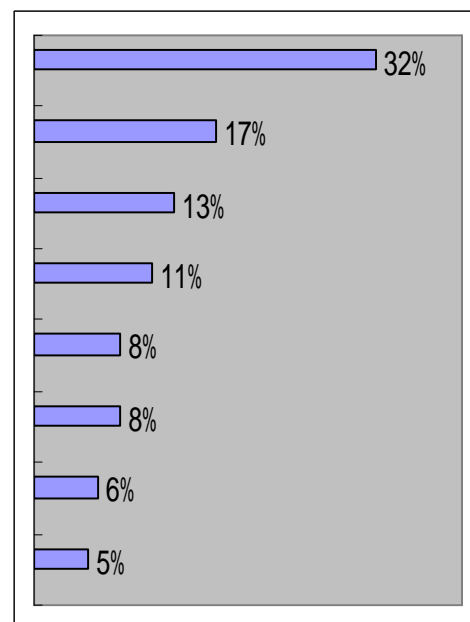
## 教育のあり方について

「命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実」が最も多い

問 1 1 あなたは、学校教育のあり方について、次の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

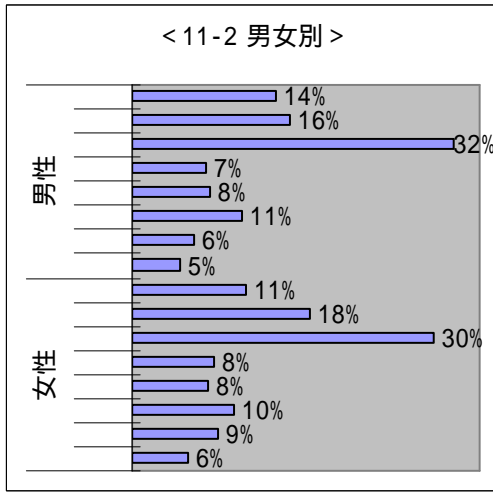
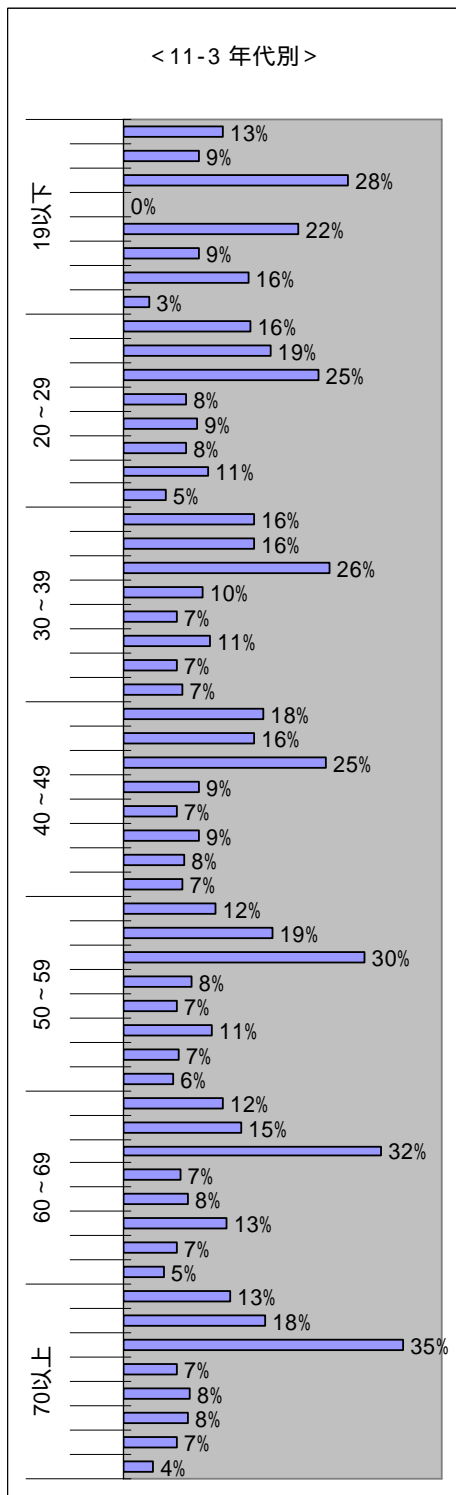
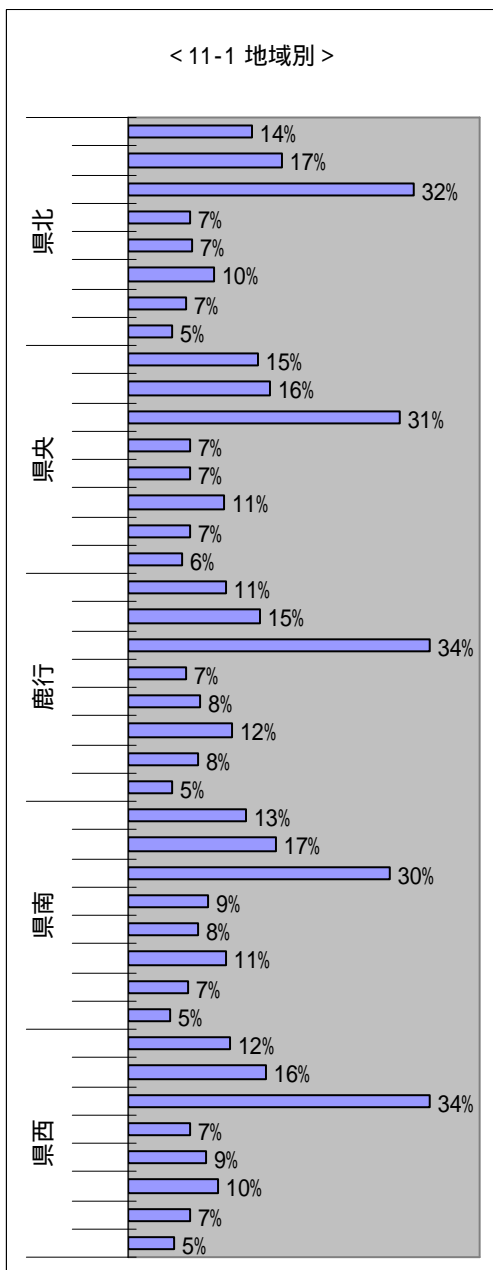
< 全体 >

- ・ 命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実(32%)
- ・ 教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保(17%)
- ・ 授業時間の増加など学力向上のための取り組み(13%)
- ・ 児童・生徒のボランティア・地域活動への参加(11%)
- ・ 地域と一体となった教育の推進(8%)
- ・ 地域で活躍する人材の学校教育での活用(8%)
- ・ 子供の悩みに対する相談体制の充実(6%)
- ・ その他(5%)



全体で見ると、命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実に力を入れるべきとする意見が32%で最も多い。地域別、男女別で見た場合も全く同じ傾向であり、「命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実」が最も多く、次いで「教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保」が多い。年代別に見ると、「命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実」が最も多いという点ではどの年代も共通しているが、19歳以下では「地域と一体となった教育の推進」が2番目に多く、20歳代と50歳以上の年代では「教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保」が2番目に多い40歳代では「授業時間の増加など学力向上のための取り組み」が2番目に多く、30歳代では「授業時間の増加など学力向上のための取り組み」と「教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保」が同程度多い。

教育のあり方について



授業時間の増加など学力向上のための取り組み  
 教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保  
 命の大切さと他人を思いやる道德教育の充実  
 地域で活躍する人材の学校教育での活用  
 地域と一体となった教育の推進  
 児童・生徒のボランティア・地域活動への参加  
 子供の悩みに対する相談体制の充実 その他

< その他の主な意見 >

- ・ 教師の質の向上を
- ・ 土曜日も授業を実施してほしい
- ・ 1クラス 30 人学級の推進を（他に 20 人学級、40 人学級など）
- ・ いじめ等に対する対策を拡充すべき
- ・ ゲーム漬けをなくし自然の中で遊ぶ経験をさせるべき
- ・ スクールバスを遠距離通学者のために走らせて欲しい
- ・ まずは家庭内の教育が大事
- ・ モンスターペアレンツや給食費未納の対応専門部署の設立
- ・ 茨城県の教育レベルを上げるべき
- ・ 外国語や IT 教育など独自の取り組み
- ・ 学校の授業だけでも満足のできるよう教員の質の向上
- ・ 家庭のしつけを重視
- ・ 基礎学力をつける取り組みを
- ・ 教員免許を持っている人を TT に多く活用する
- ・ 教師に余裕が無い現実をなんとかするべき。特に中学校の部活顧問は休日返上で過酷すぎる
- ・ 教師は教育に専念できるよう事務職員、部活コーチなど教師以外の人材の活用と役割分担
- ・ 子供のみならず保護者の悩みも受け止められるカウンセラーの配置を整備してほしい
- ・ 週休 2 日制の見直し、撤廃。
- ・ 親の教育が必要
- ・ 人を思いやる教育を
- ・ 図書館の開館時間延長を
- ・ 道徳教育、社会奉仕活動の実践
- ・ 特別支援教育の充実を
- ・ 農業販売など実施教育の取り入れ
- ・ 保護者と先生のコミュニケーション増加が必要
- ・ 放課後の部活の推進
- ・ 優秀・やる気のある教員の確保
- ・ 養護教諭の複数設置
- ・ 落ちこぼれの無い教育を
- ・ 礼儀作法や日本の伝統文化を教える

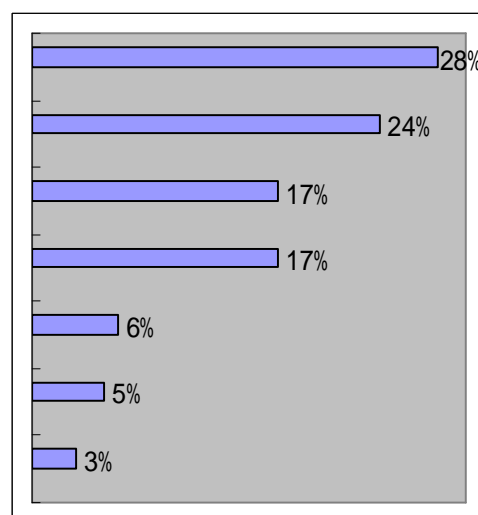
## 安全な社会づくりについて

「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」を必要とする意見が 28%で最も多く、「街灯・防犯灯の増設」を求める声も

**問 1 2** 安全な社会づくりには警察の取り組みの強化が不可欠ですが、地域の安全を守るためには警察以外の人々の協力も重要です。あなたは、次のうち、警察以外の機関や人たちはどのようなことをすべきだと思いますか。(2 つまで をつけてください)

< 全体 >

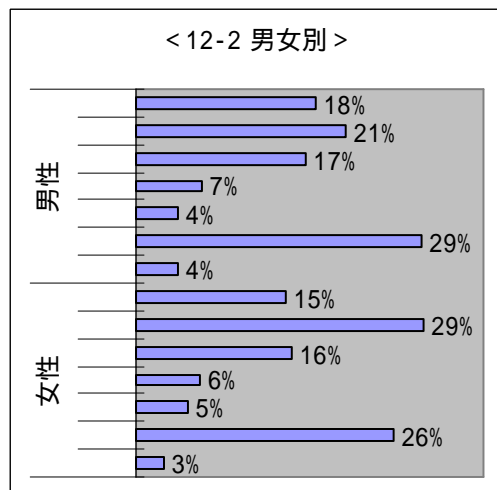
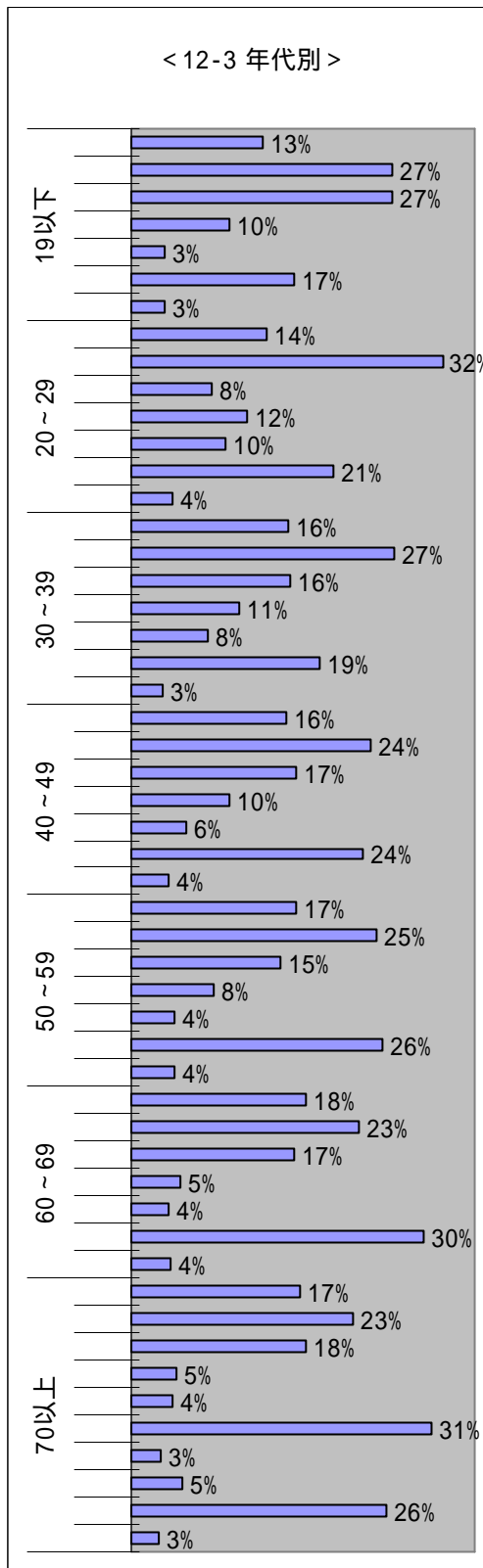
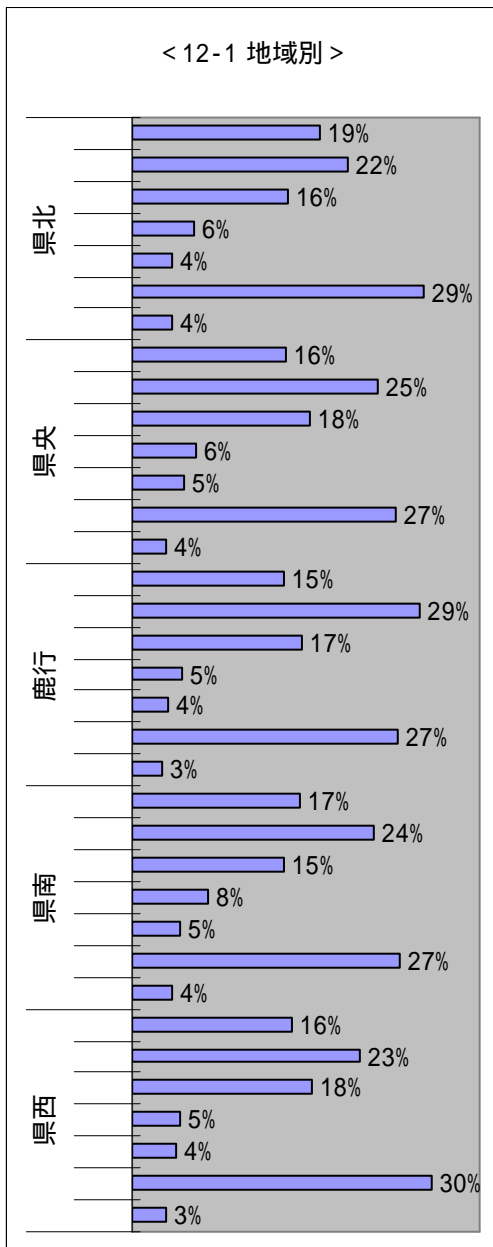
- ・ 住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み(28%)
- ・ 街灯・防犯灯の増設(24%)
- ・ 住民共同パトロール(17%)
- ・ 防犯カメラの設置(17%)
- ・ 落書き消去等の環境浄化(6%)
- ・ 駐車・駐輪場の防犯対策(5%)
- ・ その他(3%)



全体で見ると、「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」を必要とする意見が 28%で最も多く、次に「街灯・防犯灯の増設」を求める意見が多い。地域別に見ると、県央・県北・県南・県西では「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」が最も多く、次いで「街灯・防犯灯の増設」が多い。逆に鹿行は「街灯・防犯灯の増設」が最も多く、次いで「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」が多い。性別で見ると、男性は「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」が最も多く、次いで「街灯・防犯灯の増設」が多いのに対し、女性は逆に「街灯・防犯灯

の増設」が最も多く、次いで「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」の順になっている。年代別で見ると、50歳未満の年代では「街灯・防犯灯の増設」が最も多く、50歳以上の年代では「住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み」が最も多い。19歳以下の年代では、「街灯・防犯灯の増設」と「防犯カメラの設置」が上位2項目となっている。

安全な社会づくりについて



- 住民共同パトロール
- 街灯・防犯灯の増設
- 防犯カメラの設置
- 落書き消去等の環境浄化
- 駐車・駐輪場の防犯対策
- 住民、学校、企業、団体など地域の絆を強める取り組み
- その他

< その他の主な意見 >

- ・ 子供が自分自身で身を守る自覚を持てる防犯教育の強化
- ・ 地域住民のコミュニケーションづくりが重要
- ・ 警官の増員を求む
- ・ コンビニ（24 時間営業店）の防犯体制の検討
- ・ 凶器購入規制拡大（購入時に氏名、身分証明書で確認）
- ・ LED のセンサーライトを増やし省エネと防犯を
- ・ あいさつ運動の推進
- ・ いわゆる防犯灯は暗すぎて灯と灯の間が遠い。とくに郊外には黄色でなく白色の光のほうが可。光が遠くまで届く
- ・ カーブミラーの設置を
- ・ コミュニティセンター（集落センター）の活用すべき
- ・ コンビニに交番を隣接させてはどうか
- ・ パトロールの強化
- ・ モラル向上の取り組み
- ・ 安全な社会づくりには警察に勝るものなし。取り締まり強化を
- ・ 運転中の携帯電話の取り締まり強化を
- ・ 学校での防犯教育の取り組み
- ・ 景気対策を徹底し、若者を働かせ遊んでいる人をなくす
- ・ 警察がやらないなら警察から警備会社へ委託して実施すべき
- ・ 個人モラルが著しく低下している。良識ある住民の団結をして地域全体に PR すべき
- ・ 高齢者ボランティアで防犯を
- ・ 車の運転マナーが悪いので取り締まりを
- ・ 住民の意識向上
- ・ 住民パトロールに 1 時間いくらかお金を払っては
- ・ 地域のボランティアに頼りすぎず行政で
- ・ 駐在所には常時警官の配置を
- ・ 防犯カメラは最優先して設置すべきだ
- ・ 駐車違反車の取り締まりを

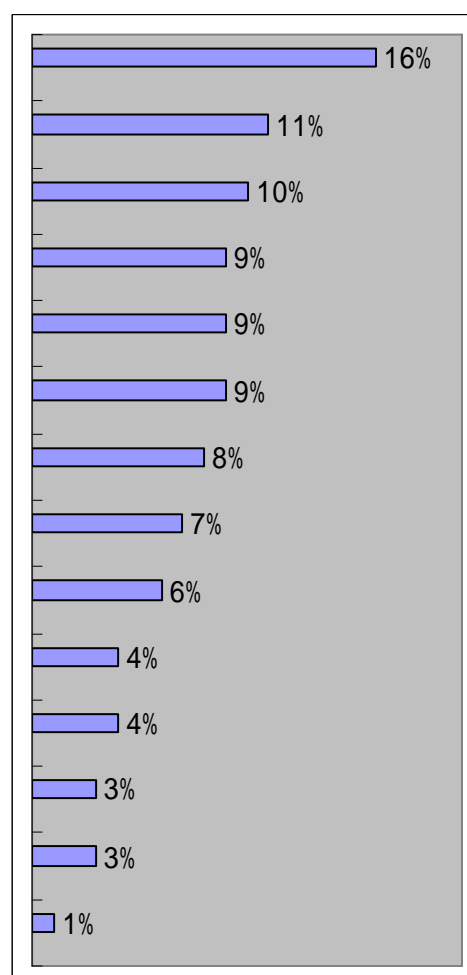
## 県の重点施策について

上位3項目は「保健・福祉・医療の充実」「安全・快適な社会づくり」「雇用対策」 -

問13 あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れていくべきだと思いますか（5つまでをつけてください）

### <全体>

- ・保健・福祉・医療の充実(16%)
- ・安全・快適な社会づくり(11%)
- ・雇用対策(10%)
- ・自然保護、環境対策(9%)
- ・農林水産業の振興(9%)
- ・子育て支援対策(9%)
- ・教育の充実(8%)
- ・公共交通機関の充実(7%)
- ・住みやすい都市づくり(6%)
- ・消費者対策(4%)
- ・商工業の振興(4%)
- ・文化・芸術・スポーツの振興(3%)
- ・観光の振興(3%)
- ・国際交流の推進(1%)

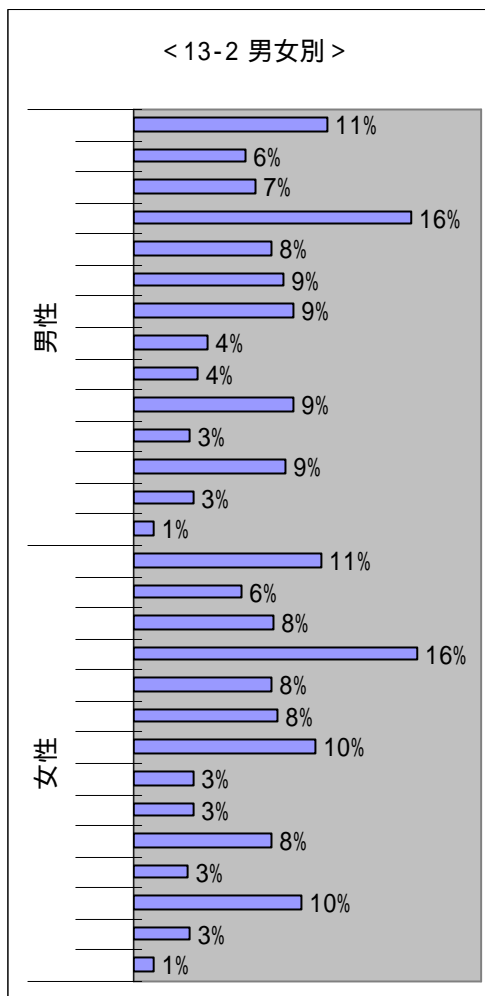
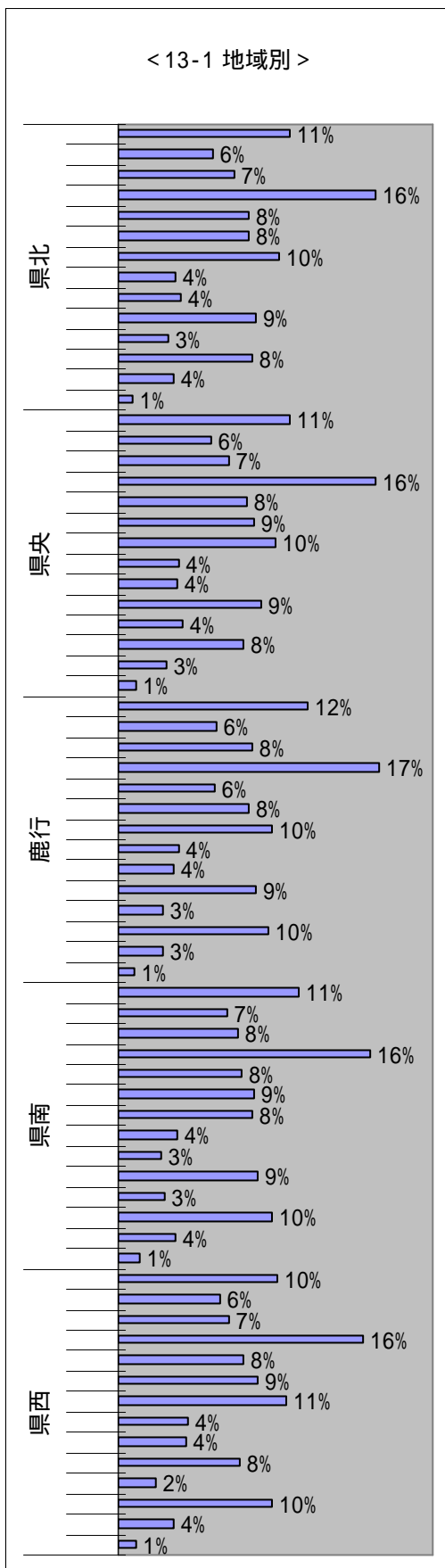


全体で見ると、県に力を入れて欲しい重点施策として回答のあった上位3つは「保健・福祉・医療の充実」「安全・快適な社会づくり」「雇用対策」である。地域別・男女別では特に差は見られず、最も多いのは「保健・福祉・医療の充実」、次に多いのは「安全・快適な社会づく



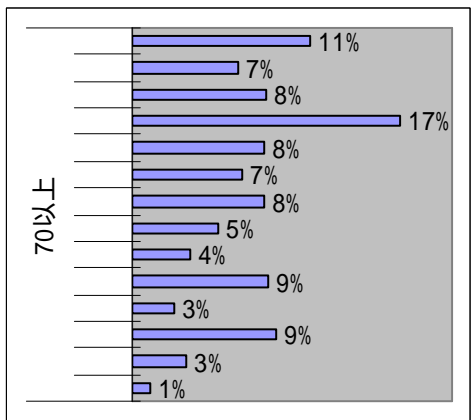
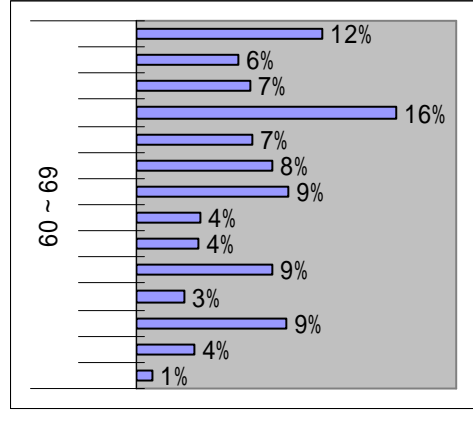
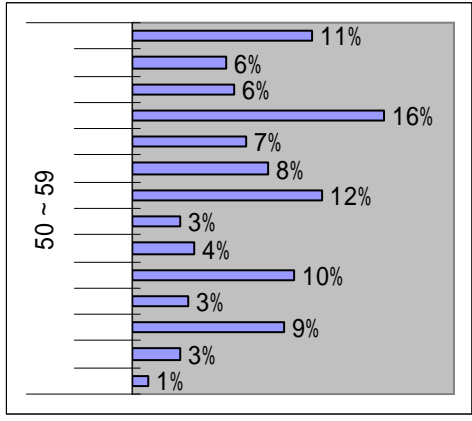
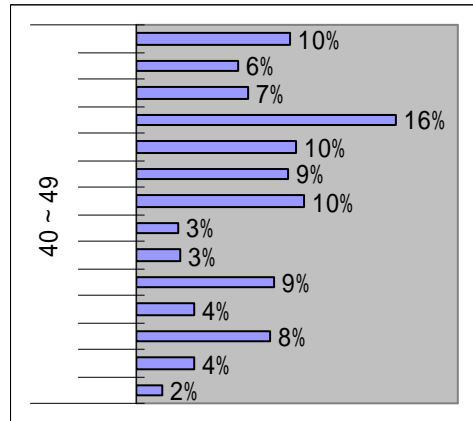
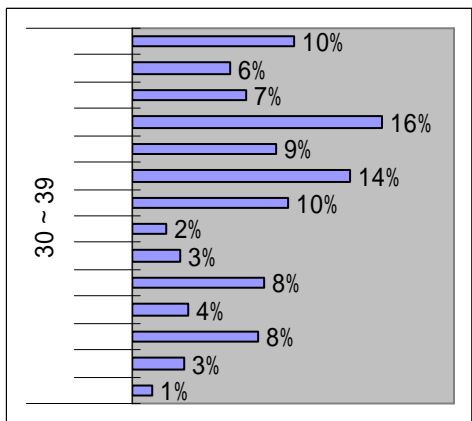
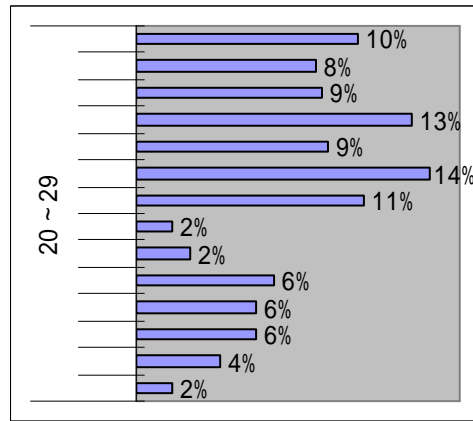
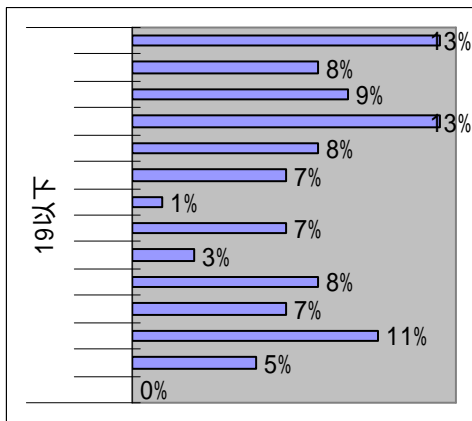
り」である。年代別に見ると、19歳以下では「保健・福祉・医療の充実」と「安全・快適な社会づくり」が同様に多い。20歳代では「子育て支援対策」が最も多く、次いで「保健・福祉・医療の充実」、30歳代では、逆に「保健・福祉・医療の充実」が最も多く、次いで「子育て支援対策」が多い。40歳代～50歳代では、「保健・福祉・医療の充実」が最も多いが、次に多いのは「雇用対策」である。60歳以上の年代は、「保健・福祉・医療の充実」が最も多く、次に「安全・快適な社会づくり」の順である。

県の重点施策について



- 安全・快適な社会づくり
- 住みやすい都市づくり
- 公共交通機関の充実
- 保健・福祉・医療の充実
- 教育の充実
- 子育て支援対策
- 雇用対策
- 消費者対策
- 商工業の振興
- 農林水産業の振興
- 観光の振興
- 自然保護・環境対策
- 文化・芸術・スポーツの振興
- 国際交流の推進

< 13-3 年代別 >



- 安全・快適な社会づくり
- 住みやすい都市づくり
- 公共交通機関の充実
- 保健・福祉・医療の充実
- 教育の充実
- 子育て支援対策
- 雇用対策
- 消費者対策
- 商工業の振興
- 農林水産業の振興
- 観光の振興
- 自然保護、環境対策
- 文化・芸術・スポーツの振興
- 国際交流の推進

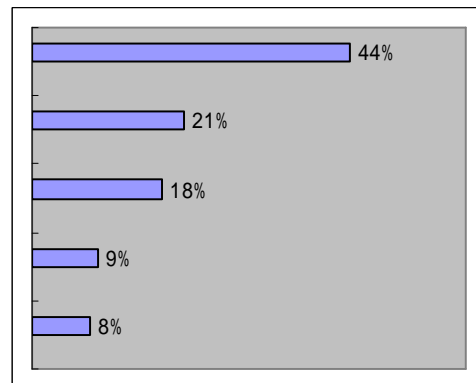
## 議会広報について

「特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する」が44%で最も多い

問14 県議会だよりは、年4回開催される定例県議会の終了後に発行しています。県議会だよりをより多くの皆様に読んでいただくには、どのような点を改善すればよいと思いますか(2つまでをつけてください)

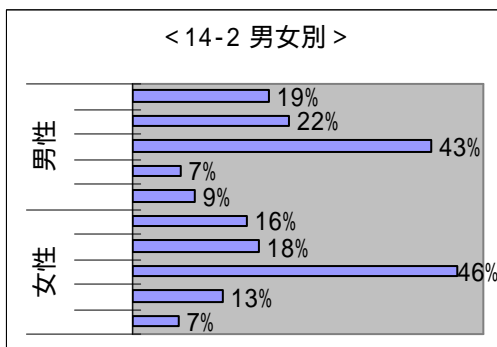
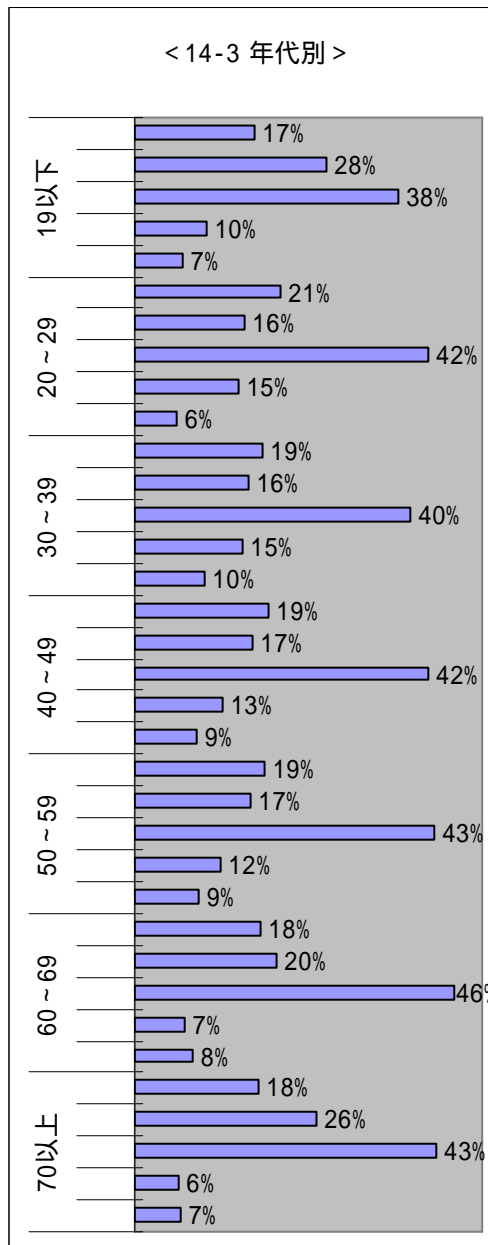
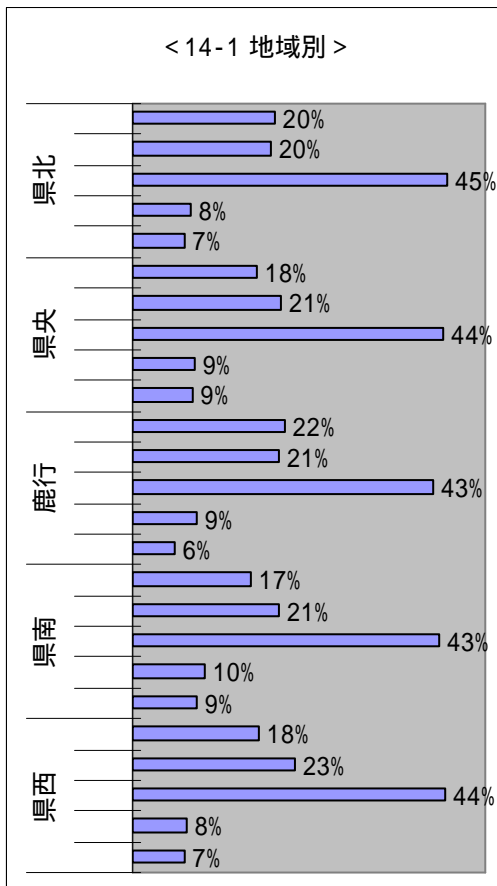
<全体>

- ・ 特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する(44%)
- ・ 文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する(21%)
- ・ 写真やイラストを増やす(18%)
- ・ 色使いやレイアウトを工夫する(9%)
- ・ その他(8%)



全体で見ると、議会だよりの紙面では「特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する」ことを望む意見が44%と最も多い。また、地域別・性別・年代別全てにおいても、「特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する」が最も多い。2番目に多いものを見てみると、地域別では県央・県南・県西では「文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する」、県北・鹿行では「写真やイラストを増やす」である。性別では男女とも「文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する」が多く、年代別では20歳以上60歳未満の年代では「写真やイラストを増やす」、19歳以下と60歳以上の年代では「文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する」が多い。

議会広報について



- 写真やイラストを増やす
- 文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する
- 特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する
- 色使いやレイアウトを工夫する
- その他

< その他の主な意見 >

- ・字をもっと大きくしてほしい
- ・もっと内容を分かりやすく記載してほしい
- ・質疑内容をもっと多く載せてほしい
- ・質疑の本文中に議員名を表示してほしい
- ・web とリンクし詳しい内容を簡単に知ることが出来るように
- ・カタカナ表現文字を少なく
- ・カラーは最小限に、白基調とする
- ・クイズやプレゼントを用いて最後まで楽しく読めるようにする
- ・まずは手にとってもらえるような目を引く工夫を
- ・もっと地域のことを詳しく
- ・可決された議案等を巻頭に大きく、どのようになったか詳しく
- ・各地区抜けることなく紹介してほしい
- ・学校職場に配布。子供たちにも関心を持たせる内容に
- ・議員の活動を具体的に
- ・議員のパフォーマンスにならないような内容にしてほしい
- ・議員や首長の顔が見えない
- ・議会で誰が何を話しているのか詳しく
- ・議会本来の活動内容のみでよい。ひばりもあるのだから
- ・県内平等に記事にしてほしい
- ・県民の声を紹介するコーナーを作り意見交換できるように
- ・見出しに工夫して親しみを感じるように
- ・現状で十分
- ・広い年齢層にアピールするよう文字の大きさやルビに配慮
- ・行政用語が分かりにくい
- ・子供にも分かりやすく
- ・写真やイラストの分かりやすい解説も入れて欲しい
- ・重点施策についてもっと詳細に記載する
- ・選挙の参考になるような個人の仕事について多くの情報を
- ・誰が何を主張したかではなく議会としての意思決定の要旨を
- ・中・高校生に学校を通して配布しては？大学など
- ・読む立場側にたった編集の仕方を徹底する
- ・アンケートを時々実施してほしい

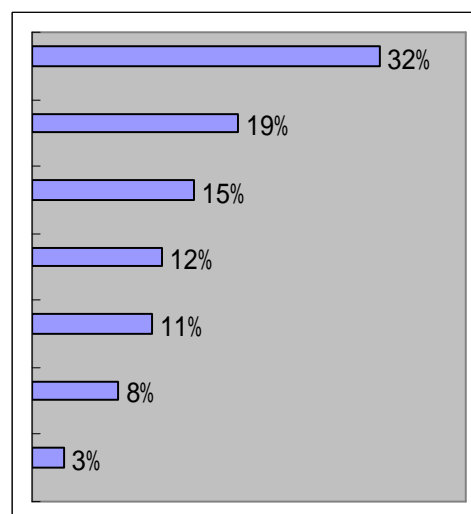
## 議会活動について（調査特別委員会について）

「保健・福祉・医療の分野における課題」が32%で最も多い

**問15** 県議会では、県政上の重要かつ緊急の課題について、対応策等について重点的に調査・審議する特別委員会を設置しています。あなたは、県議会の調査特別委員会において、どのような課題について、調査や審議をしてほしいと思いますか。（2つまでをつけてください）

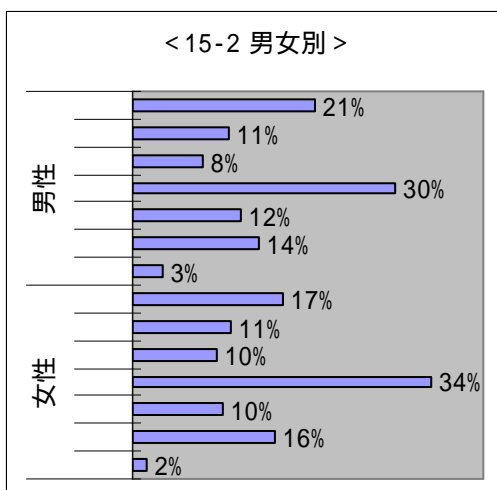
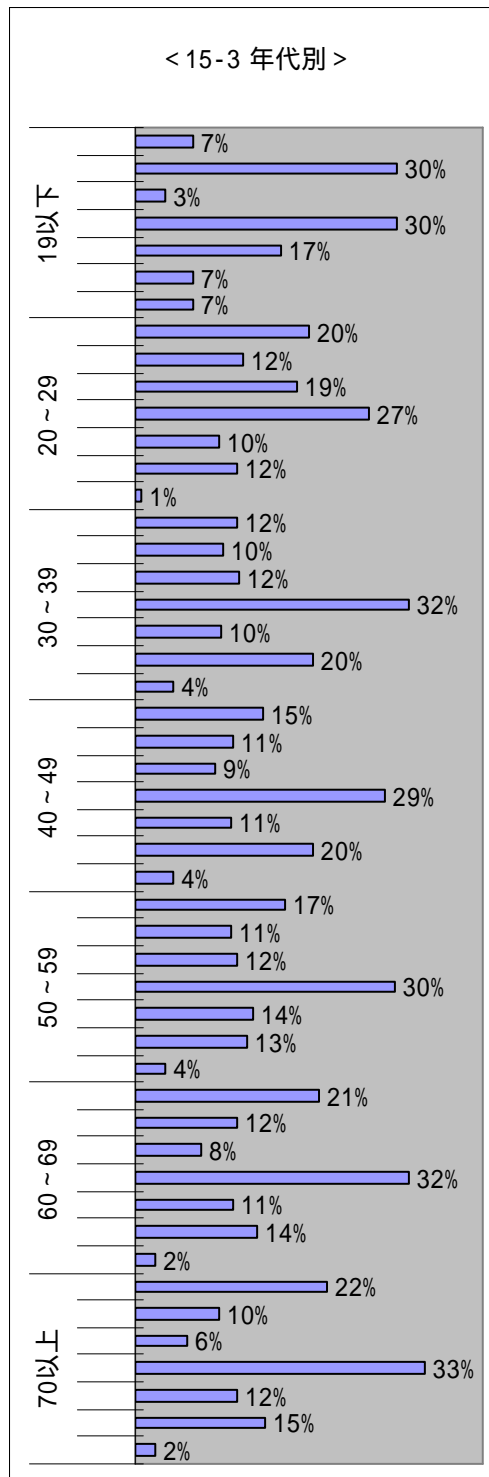
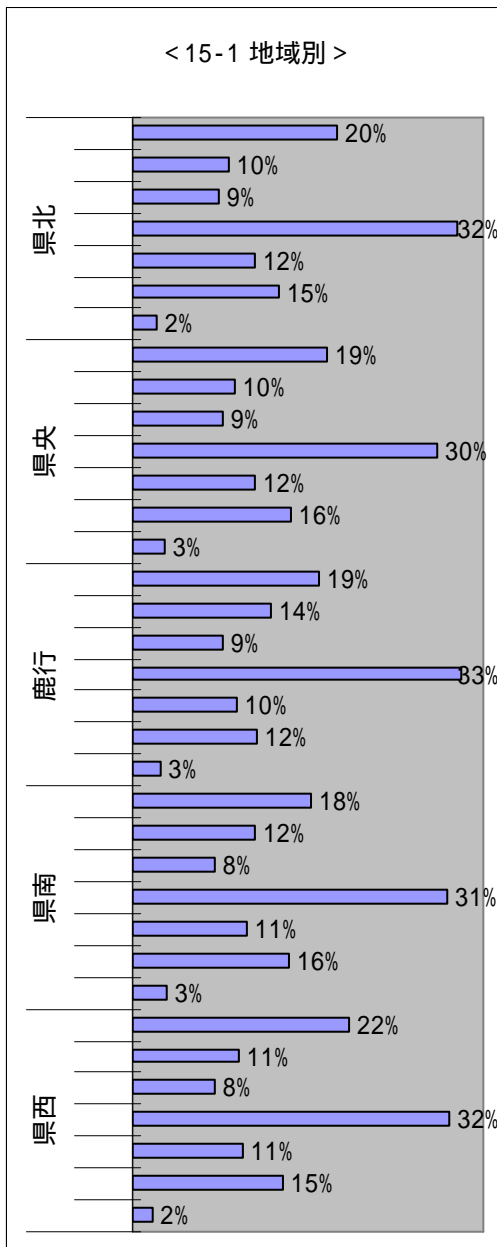
### <全体>

- ・保健、福祉、医療の分野における課題(32%)
- ・地域振興の分野における課題(19%)
- ・教育分野における課題(15%)
- ・農林水産業の分野における課題(12%)
- ・環境の分野における課題(11%)
- ・商工、観光、労働の分野における課題(8%)
- ・その他(3%)



全体では、保健・福祉・医療の分野における課題について、調査や審議をしてほしいという意見が32%と最も多い。地域別・男女別とも差は見られず、「保健・福祉・医療の分野における課題」が最も多く、次いで「地域振興の分野における課題」が多い。年代別に見ると、全ての年代で「保健・福祉・医療の分野における課題」が最も多いが、2番目に多い項目は、20歳代及び50歳以上の年代では「地域振興の分野における課題」が多いのに対し、30歳以上50歳未満の年代では「教育分野における課題」が多いのが特徴である。19歳以下は、「保健・福祉・医療の分野における課題」と「環境の分野における課題」が同数で最も多い。

議会活動について(調査特別委員会について)



地域振興の分野における課題  
 環境の分野における課題  
 商工、観光、労働の分野における課題  
 保健、福祉、医療の分野における課題  
 農林水産業の分野における課題  
 教育分野における課題  
 その他



< その他の意見 >

- ・ 雇用問題
- ・ 行政の無駄使いの調査
- ・ 茨城空港の課題や空港を活用した地域振興策
- ・ 特別委員会を設置せず常任委員会の中の調査すべき
- ・ 安全、防犯など安心して暮らせる社会の形成
- ・ 医師不足病院の閉鎖問題
- ・ 霞ヶ浦導水事業の必要性
- ・ 環境資源を利用したスポーツイベントの開拓と調査
- ・ 県の財政状況についての取り組み
- ・ 公共交通機関の充実における課題
- ・ 少子化対策
- ・ 青少年教育

## 県政・県議会に対する提案等

問 1 6 県政や県議会に対してご意見、ご提案がありましたらご自由にお書きください。

- ・最近景気低迷により収入が減り家計にも余裕のない家庭が増えてきている。県も無駄な支出を削減し、少しでも県民に納得のいく税金の使い方をしてほしい。
- ・県議会議員の定数削減、政務調査費の見直し、議員の定年制導入等をしてほしい
- ・働きたくても仕事が見つからない若者がたくさんいる。正社員で働けるよう雇用対策を急いでほしい
- ・茨城空港の開港の是非を県民に問うべき。これ以上税金を増やさないでほしい
- ・茨城空港は本当に黒字経営が成り立つのか不安。ターミナルビルの屋上を見学コースにしたりレストランを多く取り入れるなど集客の工夫を。中部国際空港（セントレア）は温泉もある
- ・地域が陸の孤島になっているので公共交通機関の充実を願う
- ・県全体、隅々まで偏ることなく目を向けてほしい。
- ・議会や議員の活動が見えず、遠い存在である。地元選出の議員の活躍がさっぱり分からない。議員は議会終了後に支持者に対し報告会を開いてほしい。議会広報はもっと詳しくわかりやすく情報を提供してほしい
- ・農産物など、茨城をもっと全国にPRしてほしい
- ・県民の意見を大切にしてほしい。アンケートはまた実施してほしい

# アンケート設問

## 議会だより県民アンケート設問

### 問 1 産業大県づくりについて

茨城県では、競争力にあふれ、これからの日本を産業面でリードするため「産業大県」づくりを推進しています。産業大県の実現のために、あなたは、次のうち特にどれに力を入れていくべきと思いますか。(2つまで をつけてください)

ベンチャー企業の育成や新たな事業分野へ進出する企業の支援  
つくば・東海などの科学技術を活かした産学官連携による先端産業の創出  
世界と競争できるような企業誘致の推進  
広域交通ネットワークを活用した国内外に開かれた観光の拡大  
消費者から信頼され、日本の食を支える元気ないばらき農業の確立  
その他( )

### 問 2 茨城空港について

茨城空港は平成 22 年 3 月、小美玉市に開港予定です。より多くの航路を確保するためどのような取り組みを行うべきと考えますか。  
(3つまで をつけてください)

様々な手段を講じ国内線の確保に引き続き努力する。  
LCC(低コスト航空会社)等海外の航空会社に就航を働きかける  
チャーター便の就航を働きかける。  
県内、近県の需要を喚起する取り組みの推進  
東アジア等外国からの需要を喚起する取り組みの推進  
その他( )

問3 森林湖沼環境税について

県では、森林や霞ヶ浦をはじめとする湖沼・河川などの保全・整備の推進のため、平成20年度から5年間、「森林湖沼環境税」を導入しており、県民の皆様方から原則として1人あたり年額1,000円を個人県民税に上乗せする形で納税していただいております。あなたは、この森林湖沼環境税を知っていますか。

(2つまで をつけてください)

よく知っている。

税金を納税していることは知っているが、使われ方はよくわからない。

税金の名前は聞いたことがあるが、詳しいことはわからない。

税金が導入されていることを知らなかった。

また、あなたは、この森林湖沼環境税をどのように使って欲しいと思いますか。

(2つまで をつけてください)

荒廃した森林の間伐などを行い、保全・整備する。

身近な平地林、里山林の保全・整備の推進。

県産木材の利用促進

生活排水や事業所排水等の汚濁削減による湖沼・河川の水質保全

子供などへの環境教育の充実

その他( )

問4 雇用対策について

あなたは、雇用対策として、次の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

企業誘致や新産業の育成などによる雇用の場の拡大

行政がやってきた仕事を、民間に移すことで、新たな雇用を生み出す。

就職相談会や各種メディアを通じた雇用情報の的確な提供

ワークシェアリング(仕事の分かち合い)の推進の働きかけ

教育の場における職業訓練の充実

その他( )

問5 福祉の充実について

あなたは、福祉の充実について、次の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

- 高齢者や障害者が、地域の中で共に暮らすことができる機会や施設の充実
- 在宅で介護している家族などへの支援
- 介護保険サービスや障害者に対する福祉サービスの充実
- ホームヘルパーなど、福祉関係の人材育成
- 生涯学習や社会参加の支援などの生きがい対策
- その他( )

問6 子育て支援について

あなたは、子育ての支援について、次の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

- 保育所などの保育施設の充実
- 保育サービスの拡充(受け入れ対象児の拡大、延長保育の推進など)
- 地域で子育てを支援する体制づくり(育児サークルなど)
- 放課後、子供を預かる児童クラブなどの充実
- 幼稚園と保育所の一元化
- 子育てへの経済的支援
- その他( )

問7 農業の振興について

茨城県は農業生産額全国第3位の農業大県ですが、一層の農業の振興を図るため、あなたは、次の中でどれに力を入れていくべきだと思いますか。

(3つまで をつけてください)

後継者や新規就農者の育成

地産地消(地域でとれた食材を地域内で消費する取り組み)の推進

優れた農畜産物のブランド化などによる市場の拡大

都市と農山村の交流の拡大(農産物直売所の開設など)

農畜産家の生産規模の拡大と生産性の向上

農薬等の適正な使用や堆肥の利用推進により、環境に優しい農業を進める。

その他( )

問8 食の安全・安心について

あなたは、食の安全・安心の実現のため、今後、次のうちどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。(3つまで をつけてください)

食の安全・安心に関する情報提供

生産者や事業者と消費者が交流し話し合う場を設ける。

地域の食文化や食品の安全に関する知識を深める食育を推進する。

県内で生産された農畜水産物や食品について、認証する制度を推進する。

食品や農産物に対する安全確保のための基準を県独自で強化する。

生産者、事業者に対する監視・指導を強化する。

食品の検査を強化する

その他( )

問9 景観行政について

景観に対する県民の関心が高まっている中、今後、次のうちどのような取り組みを強化していくべきと考えますか。(2つまで をつけてください)

- 建物の色や形などに対する規制や誘導
- 地域住民の参加によるボランティア活動
- 景観育成のための、行政からの経費助成
- 景観に配慮した公共事業の推進
- 景観に関する講習会や表彰の実施などの啓発活動
- その他( )

問10 道路行政について

あなたは、今後の道路整備は次のうちどのようなものに重点的に取り組むべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

- 高速道路の整備
- 国道などの幹線道路の整備
- 市街地の中の生活道路の整備
- 歩道や自転車道の整備
- 景観・美観に配慮した道路の整備
- 既存の道路の維持補修
- その他( )



問 11 教育のあり方について

あなたは、学校教育のあり方について、以下の施策の中で、どれに力を入れていくべきだと思いますか。(2つまで をつけてください)

- 命の大切さと他人を思いやる道徳教育の充実
- 地域で活躍する人材の学校教育での活用
- 地域が一体となった教育の推進
- 児童・生徒のボランティア・地域活動への参加
- 子供の悩みに対する相談体制の充実
- 授業時間の増加など学力向上のための取り組み
- 教師の負担軽減による児童・生徒と向き合う時間の確保
- その他( )

問 12 安全な社会づくりについて

安全な社会づくりには警察の取り組みの強化が不可欠ですが、地域の安全を守るためには警察以外の人々の協力も重要です。

あなたは、次のうち、警察以外の機関や人たちはどのようなことをすべきと思いますか。(2つまで をつけてください)

- 住民共同パトロール
- 街灯・防犯灯の増設
- 防犯カメラの設置
- 落書き消去等の環境浄化
- 駐車・駐輪場の防犯対策
- 住民、学校、企業・団体など地域の絆を強める取組み
- その他( )

問 13 県の重点施策について

あなたは、今後、県がどのような分野に力を入れていくべきだと思いますか。  
( 5 つまで をつけてください )

自然保護、環境対策  
保健・福祉・医療の充実  
雇用対策  
消費者対策  
快適な社会づくり  
住みやすい都市作り  
子育て支援対策  
教育の充実  
安全な社会づくり  
公共交通機関の充実  
観光の振興  
商工業の振興  
農林水産業の振興  
文化・芸術・スポーツの振興  
国際交流の推進

問 14 県議会広報について

県議会だよりは、年 4 回開催される定例県議会の終了後に発行しています。  
県議会だよりをより多くの皆様に読んでいただくには、どのような点を改善すればよいと思いますか。( 2 つまで をつけてください )

写真やイラストを増やす。  
文字情報を増やし、記事全般についてより詳しく記載する。  
特集を組むなど、特に重点をおいた内容について分かりやすく記載する。  
色使いやレイアウトを工夫する。  
その他( )

問 15 議会活動について（調査特別委員会について）

県議会では、県政上の重要かつ緊急の課題について、対応策等について重点的に調査・審議する特別委員会を設置しています。

あなたは、県議会の調査特別委員会において、どのようなテーマについて、調査や審議をしてほしいと思いますか？（1つに をつけてください。）

地域振興の分野における課題を中心としたテーマについて

環境の分野における課題を中心としたテーマについて

商工，観光，労働の分野における課題を中心としたテーマについて

保健，福祉，医療の分野における課題を中心としたテーマについて

農林水産業の分野における課題を中心としたテーマについて

教育分野における課題を中心としたテーマについて

その他（ ）

問 16 県政・県議会に対する提案等

県政や県議会に対してご意見、ご提案がありましたらご自由にお書きください。

問 17 アンケート回答者について

最後にあなたご自身のことについて、お聞かせください。

完全無記名のアンケートのうえ、回答内容については統計処理いたしますので、回答者個人を特定できるような情報は一切わからないしくみとなっております。

(問) あなたの性別は      男性      女性

(問) あなたの年齢はおいくつですか

|           |           |           |           |
|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 19 歳以下    | 20 ~ 29 歳 | 30 ~ 39 歳 | 40 ~ 49 歳 |
| 50 ~ 59 歳 | 60 ~ 69 歳 | 70 歳以上    |           |

(問) あなたの主なご職業は何ですか

|           |      |         |       |
|-----------|------|---------|-------|
| 自営業・自由業   | 農林漁業 | 商工サービス業 | 管理職   |
| 事務職・専門技術職 | 労務職  | 学生      | 主婦    |
|           |      |         | その他無職 |

(問) あなたのご住所を市町村名でお答えください。

(    市・町・村 )

質問は以上で終わりです。ご協力いただきありがとうございました。